

四

月

五月四日

▲藤孝兵を丹波に出す。【(四)山陰方面】
▲信長、前田利家、佐々成政等を北國に働かしむ。【(五六)信長と北國】
▲家康自から田中城を攻む。【(二七)家康と勝頼の對抗】

八月十五日

▲信長、江州國中及び京都の相撲取千五百人を安土城に召寄す。【(一五)信長の道楽】

九月

月

十月五日

▲丹後の領主一色義道但馬に奔らんとし、途中藤孝等に殺さる。【(四)山陰方面】
▲九月、信長安土山に相撲を興行し、信忠・信雄の二子に見物せしむ。【(一五)信長の道楽】

十一月二日

▲勝頼小山、相良に著陣の報あり、家康父子横須賀に出陣、相持して戦はず。

▲廿六日、勝頼高天神城に入り、▲晦日、家康父子瀨松に還る。【(以上)二七)家康と勝頼の對抗】
▲信長新築の二條邸を皇家に献ず。【(一四)信長と皇室】

天正己卯七年

西曆1579年
支那萬曆七年

三月廿五日

▲武田勝頼高天神城下國安に出張す、徳川家康父子夜に入り馬伏塚に至る。【(二七)家康と勝頼の對抗】

四月

月

五月廿七日

▲上杉景勝、勝頼の援軍と喜多川館を襲ひ、上杉憲政戦死し、景虎自殺す。【或は云ふ三月廿四日と】
【(三〇)有無交換】

六月十三日

▲安土宗論、安土淨嚴院にて執行す、淨土宗と法華宗との立會論判是也。【(一二六)安土宗論】
▲竹中重治平山の陣にて卒す、年三十六。【(三)竹中重治】
▲十六日、織田信長、酒

七月

月

八月二日

▲勝頼其妹を景勝に嫁す。【(三〇)有無交換】

九月四日

▲信長、安土宗論の淨土宗側僧侶、列者等に賞賜あり。【(二六)安土宗論(六)】
▲六月、信長、江州中の相撲を安土に召寄す。【(一五)信長の道楽】
▲廿九日、徳川家康、野中重政を遣し築山殿を殺す。【(三四)信長の最後】

▲勝頼の豹變により北條、徳川、織田の同盟成る。【(三〇)有無交換】
▲十日、

天正八年

西曆1580年
支那萬曆八年

正月六日

▲天正六年八月以來、別所長治三木城に籠城し、羽柴秀吉之れが攻圍に従事す。【(中篇年表参照)此日秀吉進んで宮之上

の岩を占領し、▲十一日、秀長と與に鷹之尾の岩及び新城を陥れ、其の本營を鷹之尾に移す。▲十五日、秀吉、別所重棟をして長治等に自盡を勸告せしむ。
▲十七日、別所長治等自盡し、三木城陥落す。【以上三三三木城の陥落】▲伯耆の南條元續兄弟、兵を出して島田城を攻め、吉川の軍と戦ふ。【四山陰方面】

二月

信長安土より京都に來り、大阪近接の地を巡視し、本願寺に對して示威運動をなす。【五本願寺窮境に落つ】▲細川藤孝父子八幡城に入り、一色義定を女婿とし、遠近の諸城を降し、丹後一圓を平定す。【四山陰方面】▲根來寺の岩室坊、山崎に來りて信長に謁す。【五本願寺窮境に落つ】

三月一日

信長勅命を奏請して、本願寺顯如に大

閏三月二日

本願寺顯如勅答に關する示諭を受く。
▲池田勝三郎父子花隈城兵を破る。
【以上五本願寺窮境に落つ】▲六日、信長、青山虎を檢視として大阪本願寺に遣す。【七退去と否退去】

四月九日

本願寺顯如大阪を退轉して、紀州鷲森に入る。【七退去と否退去】▲秀吉、天正五年十月以來但馬を攻略、此月全

五月五日

く但馬を平定す。【四山陰方面】
信長、安土に於て一門衆に、▲十七日馬廻集に相撲を見物せしむ。【一五信長の道樂】▲廿四日、本願寺顯如諸國の門徒へ教書を下さす。【七退去と否退去】▲秀吉兵を播州より因幡に進む。【四山陰方面】

六月六日

秀吉、鹿野城を降し、山名豊國の女を収めて鳥取城に向ふ。▲廿一日、鳥取城主山名豊國播州に奔る。豊國の老臣等山名豊弘を擁して鳥取城に據り、命を吉川元春に聞く。【以上四山陰方面】▲五〇鳥取城の籠城▲長曾我部元親光秀の執成にて信長に獻物す。【五八信長と四國一】▲英船、平戸に來る。

七月

信長、村重の家臣擲取の爲め、前田利家等を高野山に赴かしむ、山徒之を欺

八月二日

還す。【六〇信長と高野山】
本願寺顯如大阪を退轉し、城池全く信長の手に歸す。【八石山の最後】▲九日、教權と大阪▲十二日、信長、京都より大阪に至る、同時に佐久間盛政父子に向て譴責狀を發し、同人父子を高野山に逐ふ。【一〇一一信長自筆の折檻書】▲十七日、信長、大阪より京都に歸り、林通勝、安藤伊賀父子、丹波右近等の舊罪を責めて追放す。【一二信長の殘忍性一】▲家康高天神城攻圍に著手す。【三七高天神城の陥落】

九月

信長、瀧川一益、明智光秀を大和に遣し檢地をなす。【二〇信長の檢地】▲龍造寺隆信筑後を略す。

十一月

鐵叟景秀八十五歳にて寂す。【九三三五山禪宗の末期】
越中、加賀、能登、織田氏の領土となる。

【五六】信長と北國

天正 巳 九年 西曆 1581年 支那 萬曆 九年

正月十五日 織田信長安土城に馬揃を施行す。【一

六】信長の馬揃【一】

二月廿八日

信長、光秀を奉行とし、京都に大馬揃を施行して觀覽に供し、盛儀壯觀を極む。【一六一—一八】信長の馬揃【一】吉川

經家、市川雅樂允に代り鳥取城に入る。【五〇】鳥取城の籠城

三月五日

信長、禁中の御所望に依り小馬揃を施行す。【一八】信長の馬揃【三】▲十日、信長安土より竹生島參詣、長濱を見、歸來出遊の女房、並に桑貫寺の長老等を刑す。【一三】信長の残忍性【一】▲廿三日、武田勝頼の屬城高天神城陥落し、八年を経て再び徳川家康の手に復歸す。【三七—三八】高天神城の陥落【一】

四月

柴田勝家等の上洛するや、上杉景勝の宿將河田豊前、加賀の一揆と應じて兵を擧ぐ、幾許もなく平定す。【五六】信長と北國

六月廿五日

秀吉姫路を發し、但馬を経て因幡に入り、鳥取城に薄る。【五一】秀吉鳥取城に迫る

七月七日

秀吉の全軍鳥取附近に集合す、秀吉諸將を部署して攻圍に著手す。【五一】秀吉鳥取城に薄る【一】勝頼韮崎西北の地に新城を築き新府と稱す。【三九】武田氏の亡徴【一】

八月十七日

信長、能登を前田利家に與ふ。【五七】信長と上杉景勝【廿五日、秀吉の軍、賀露川に毛利氏の運送船を燒く。【五

九月三日

【一】秀吉鳥取城に薄る【一】▲信長、高野聖を誅す。【六〇】信長と高野山

十月九日

信長、安土より伊賀の視察に赴き、▲十三日、歸城す。【以上六〇】伊賀の平定【一】▲廿日、秀吉堀尾吉晴を使として、吉川經家に勸降す。▲廿五日、吉川經家自殺し、鳥取城陥る。【以上五二】鳥取城の陥落【一】▲吉川元春、羽柴秀吉と伯耆馬山に對陣す、▲二十九日、秀吉鳥取に退き、元春亦安藝新庄に歸る。【五三】馬山の對陣【一】▲信長、高野攻の命を發す。【六〇】信長と高野山

十一月八日

秀吉姫路に歸る。▲十七日、秀吉淡路を平定す。【以上五三】馬山の對陣【一】▲勝頼、信長の質子勝長を送還す。【三

十二月

九【武田氏の亡徴【一】】秀吉、信長に歳暮の祝儀を獻す。【五五】秀吉と信長【二】▲六五】秀吉と中國陣【一】▲因幡一圓平定、織田氏の領土に歸す。【五三】鳥取城の陥落【一】▲廿四日、勝頼新府に移る。【三九】武田氏の亡徴【一】】

天正 午 十年 西曆 1582年 支那 萬曆 十年

正月廿五日

信長、伊勢太神宮の正遷宮を行ふ。【一九】經濟家としての信長【一】▲小早川隆景備中の諸城主を備後三原に會して訓示す。【六五】秀吉と中國陣【一】▲信長、長曾我部元親に土佐一國阿波二郡の外を返上を命ず。【五八】信長と四國【二】▲木曾義昌信長に通じて擧兵、武田勢軍を出して戰ふ。【四一】信長の軍配【一】▲三月、信長武田討伐の命を出し徳川、

二月朔日

北條の二聯盟國に共撃の通牒を發す。
 【(四一)信長の軍配】▲九日、信長軍令狀を發す。【(四二)信忠信州に入る】▲十二日、信忠岐阜を發し、▲十四日、岩村に著陣、▲十五日、飯田に移り、次で大島に入城す。以上(四二)信忠信州に入る。▲十八日、家康濱松を出發。▲十九日、牧野城に入る。▲二十日、田中城に向ふ、依田信蕃開城して甲州に奔る。▲廿一日、家康駿府に著す。▲廿三日、持舟城を攻む、▲廿七日、持舟城主朝比奈開城して久野に退く。【以上(四四)漸く最後に迫る】

三月朔日
 穴山梅雪岩原に抵り、家康に會見して歸順の意を表す。【(四四)漸く最後に迫る】▲二日、高遠城遂に陥り、仁科信盛等戦死す。【(四三)高遠城の劇戦。(四四)漸く最後に迫る】▲三日、信忠上諏訪

訪社を燒く、次で高島城深志城、投降す。【(四四)漸く最後に迫る】勝頼新府を燒て落去、次日、駒飼に次す。【(三五)勝頼の最後】▲五日、信長安土を發す。【(四四)漸く最後に迫る】▲七日、家康興津に陣す。【(四四)漸く最後に迫る】▲八日、信長岐阜より大田に至る。【(四四)漸く最後に迫る】▲九日、家康甲州西郡萬座に陣し、諸兵身延に進む、穴山梅雪案内として文殊堂市川口より攻入す。【(四四)漸く最後に迫る】▲十一日、信長岩村に至る。【(四四)漸く最後に迫る】同日、勝頼以下田野に自殺し、武田氏遂に滅ぶ。勝頼三十七歳。夫人十九歳。信勝十六歳。▲十五日、信長、勝頼父子の首を飯田に梟す。【以上(四六)勝頼の最後】同日、秀吉姫路を發す。【(六五)秀吉と中國陣】▲十八日、信長

高遠城に入る。▲十九日、信長、庶政の沙汰をなす。次で武田氏舊領土の處分を了す。【以上(四九)武田氏舊領土の處分】▲信長の武田氏征伐の訛傳、越中を騷擾せしむ、織田氏の諸將越中越後に攻入、景勝窮地に陥る。【(五七)信長と上杉景勝】

四月三日
 信忠甲州惠林寺を燒く、快川國師焚死す。【(四八)惠林寺炎上。(九三)五山禪宗の末期】▲四日、秀吉岡山に入る。【(六五)秀吉と中國陣】▲十日、信長甲府を發し、路を東海道に取りて凱旋の途に上り、▲廿一日、安土城に歸る。【以上(六二)六四)信長の凱旋】▲信長甲府より凱旋し、直ちに四國討伐の命を發す。【(五九)信長と四國。(六四)信長の凱旋(三)】▲十四日、秀吉、宇喜多の兵を合して備中に入り、宮路山

五月二日
 冠山二城を攻む。▲廿五日、宇喜多の冠山山城を陥る。【以上(六五)秀吉と中國陣】▲秀吉、峰須賀正勝、黒田孝高を備中宮内に遣し、高松城將清水宗治を招降せんとす、宗治肯かず。【(六六)高松の水攻】▲廿七日、秀吉愈々高松城に薄る。【(六六)高松の水攻】▲宮路山城開城す。【(六五)秀吉と中國陣】▲七日、秀吉陣を蛙ヶ鼻に移し高松城の水攻に著手す。【(六六)高松の水攻】▲十一日、家康、穴山梅雪を伴ひ濱松を出發、安土に向ふ。▲十五日、家康安土に參著、信長の之を遇する殷懃を極む。▲十九日、總見寺に於て幸若八郎九郎大夫の舞、次日、祓若大夫の能を演ぜしむ。▲廿日、大振舞ひ、▲廿一日、家康上洛、京都、大阪、奈良、堺見物の爲め也。【以上(七〇)家康の安土參向】

▲十五日、信長、家康馳走の役を明智光秀に命じ、同時に中國出陣の令を發す。【七一】不可解乎可解乎。▲同日秀吉、信長に援軍派遣を申請す。【六八】講和は何れより發議したる。▲十七日、光秀坂本に歸城す。【七五】光秀の決心。▲廿一日、元春は岩崎山に、隆景は日差山に、輝元も亦た猿懸山に至り、毛利氏全力を擧げて高松に來援す。【六六】高松の水攻。▲廿六日、光秀坂本を發して丹波龜山に赴く。▲廿七日、光秀龜山より愛宕山に參向。▲廿八日、光秀愛宕山西坊にて連歌興行。【以上七五】光秀の決心。【七六】火事場泥坊乎。▲廿九日、信長安土城を發して上洛、本能寺に宿す。【八六】火事場泥坊乎。夜、明智光秀龜山城を發し、老坂より左行して京都に進む。▲二日、光秀信

長を本能寺に襲ふ、信長自殺す。年四十九歳。【七七・七九】本能寺打入。【八一】フロエーの報告。次で信忠を二條城に圍む、信忠自殺す。年二十六。【八〇】信忠の死。【八二】フロエーの報告。

其二 人物年表

〔ア行〕

阿字戒源太兵衛 藤堂高虎の臣。【五一】秀吉鳥取城に薄る。
 安宅木河内守 淡路由良の城主。天正九年十一月、羽柴秀吉の攻むる所と爲り、之に降る。【五三】馬山の對陣。
 安部加賀守 名は勝實、初め五郎左衛門と稱す。武田氏に仕へ、使番十二衆の一人なり。天正十年三月十一日、勝頼に從て田野に殉す。【四六】勝頼の最後。【中篇掲出】。【一五】信長の道樂。【武田勝頼の臣】。【三八】高天神城の陥落。【織田信長の臣】。【七】退去と否退去。【青山 虎

赤座七郎右衛門 織田信忠の臣。【四八】惠林寺炎上。【八〇】信忠の死。

秋山紀伊守 武田勝頼の臣。天正十年三月、日野に殉す。【四六】勝頼の最後。【前中篇掲出】。【三一】家康と築山殿。【三九】武田氏の亡徴。【中篇掲出】。【七六】火事場泥坊乎。【七七】本能寺打入。【七七】本能寺打入。【中篇掲出】。【四】山陰方面。【七六】火事場泥坊乎。【七七】本能寺打入。【九二】當時の高嶽。【前中篇掲出】。【三】木城の窮迫。【四】山陰方面。【一〇】信長自筆の折檻書。【一一】信長の残忍性。【一五】信長の道樂。【一六】信長の馬揃。【二〇】信

上松藏人
淺井六介
淺野彌兵衛

長の檢地。(三九) 武田氏の亡國。(四二) 信忠信州に入る。(五七) 信長と上杉景勝。(五八、五九) 信長と四國。(六五) 秀吉と中國陣。(六八) 謙和は何れより發議したる。(七〇) 家康の安土參向。(七一) 不可解乎可解乎。(七二、七三、七四) 河故に謀反したる乎。(七五) 光秀の決心。(七六) 火事場泥坊乎。(七七、七八、七九) 本能寺打入。(八〇) 信忠の死。(八一) フロエーの報告。(八二) 信長の事業。(八三) 統一の志望者は誰ぞ。(八六) 人材競進時代の成功者。(八八) 直情徑行。(九九) 信長に對する宣教師の評。(一〇二) 自恃の英雄。】

足利義政
足利義滿

前中篇揭出。【(一五) 信長と道樂。】前篇揭出。【(九四) 宋學興隆の來歴。】

朝比奈泰成
朝山日乘
足利義昭

北條氏政の臣。【(三〇) 有無交換。】前中篇揭出。【(二二) 安土宗論。(八六) 人材競進時代の成功者。】前中篇揭出。【(五) 本願寺窮境に落つ。(一〇) 信長自筆の折檻書。(一四) 信長と皇室。(一九) 經濟家としての信長。(二八) 外交上に於ける勝頼の位置。(四八) 惠林寺炎上。(六〇) 信長と高野山。(七六) 火事場泥坊乎。(八二) 信長の事業。(九二) 無意識の帝國主義實行者。(九五) 信長と儒道。】

朝比奈攝津守

武田勝頼の臣。【(四六) 勝頼の最後。】

一) 秀吉鳥取城に薄る。(五二) 鳥取城の陥落。(六七) 高松城死地に陥る。(七九) 本能寺打入。】

跡部勝資

中篇揭出。【(四六) 勝頼の最後。(四七) 武田氏亡滅の責任者。】

穴山梅雪

前中篇揭出。【(三九) 武田氏の亡國。(四三) 高遠城の劇戰。(四四) 漸く最後に迫る。(四九) 武田氏舊領土の處分。(七〇) 家康の安土參向。】

姊小路頼綱

一) 自綱又は光頼に作る。姓は藤原氏。參議嗣頼の子。永祿三年、左衛門佐に任じ、侍從と爲る。天正十五年京師に卒す。年四十八。或は云ふ、天正十年豊臣秀吉の臣金森長近の攻むる所と爲りて死すと。【(五六) 信長と北國。】

淡河定範

中篇揭出。【(一) 三木城の窮迫。】

淡河新三郎

淡河定範の弟。別所長治に仕ふ。【(一) 三木城の窮迫。】

天方通綱

山城守と稱す。徳川家康の臣。【(三) 信康の最後。】

尼子勝久

中篇揭出。【(四) 山陰方面。】前篇揭出。【(二七) 家康と勝頼の對抗。】

天野景貫

天野源右衛門。明智光秀の臣。【(七八) 本能寺打入。】

天野源右衛門

伊豆の人。天野邑に住す。因て氏とす。初め内舍人と爲り、藤内と稱す。源頼朝に仕へて功あり。後ち祝髪して蓮景と號す。【(二七) 家康と勝頼の對抗。】

天野遠景

伊豆の人。天野邑に住す。因て氏とす。初め内舍人と爲り、藤内と稱す。源頼朝に仕へて功あり。後ち祝髪して蓮景と號す。【(二七) 家康と勝頼の對抗。】

新井白石

前中篇揭出。【(二) 竹中重治。(三六) 徳川信康。(八六) 人材競進時代の成功者。(一〇一) 實力の英雄。】

荒木彌助

荒木村重の臣。【(八八) 直情徑行。(九二) 當時の高襟。】

荒木村重

前中篇揭出。【(一) 三木城の窮迫。(五) 本願寺窮境に落つ。(六) 本願寺側の講和理由。(一五) 信長の道樂。】

荒木村重

前中篇揭出。【(一) 三木城の窮迫。(五) 本願寺窮境に落つ。(六) 本願寺側の講和理由。(一五) 信長の道樂。】

有賀備後守

【五〇】鳥取城の籠城。(六〇)信長と高野山。(七二)何故に謀反したる乎。(八八)直情徑行。】
武田勝頼の臣。【四二】信忠信州に入る。】

有地右近

吉川元春の臣。【五一】秀吉鳥取城に薄る。】

安國寺惠瓊

中篇掲出。【六八】講和は何れより發議したる。(一〇二)自恃の英雄。】

安藤伊賀守

前篇掲出。【一二】信長の殘忍性。(八〇)信忠の死。】

イ、中

井合次郎左衛門

羽柴秀長の臣。【五一】秀吉鳥取城に薄る。】

飯河宮松

織田信長の臣。本能寺の變に死す。【七九】本能寺打入。】

飯島小太郎

武田勝頼の臣。【四三】高遠城の劇

飯島民部丞

【戰】武田勝頼の臣。【四三】高遠城の劇戰。】

井伊直親

前篇掲出。【二七】家康と勝頼の對抗。】

井伊直政

前篇掲出。【二七】家康と勝頼の對抗。】

池田勝三郎

前篇掲出。【五】本願寺窮境に落つ。(一〇)信長自軍の折檻。(四二)信忠信州に入る。(六八)講和は何れより發議したる。(八六)人材競進時代の成功者。】

池田輝政

小字は三助、又は新吉、三左衛門と稱す。信輝の第二子。尾張の人。織田信長に仕へ、信長の死後豊臣秀吉に仕へて軍功あり。後ち徳川家康に屬し、庚子の亂、東軍に従ふ。慶長十八年正月卒す。年五十。【四二】信

石谷兵部

【忠信州に入る。】
明智光秀の臣。【五九】信長と四國。】

石川數正

前中篇掲出。【七〇】家康の安土參向。】

伊勢兵庫頭

織田信長の臣。【一六】信長の馬捕。】

市川雅樂允

吉川元春の臣。【四】山陰方面。(五〇)鳥取城の籠城。】

一條藏人

武田勝頼の臣。【四六】勝頼の最後。】

一條信龍

中篇掲出。【四三】高遠城の劇戰。(四六)勝頼の最後。】

一條禪閣兼良

姓は藤原氏。關白經嗣の第二子。父の後を繼ぎ、左大臣從一位に累遷し、尋て太政大臣に拜し、關白氏長者と爲る。文明十三年薨す。年八十。博學多聞、朝典に熟し、和歌を善くし、又神道に通じ、佛書に涉る。著作極めて多し。【九四】宋學興隆の來歴。】

伊地知重貞

島津忠昌の老臣。【九四】宋學興隆の來歴。】

一ノ宮親王

誠仁親王也。前篇掲出。【一四】信長と皇室。】

市橋九郎右衛門

織田信長の臣。【一五】信長の道樂。】

市橋源八

織田信長の臣。安土城留守衆と爲る。【七六】火事場泥坊乎。】

市若

織田信長の小姓。【一七】信長の馬捕。】

一休和尚

山城紫野大徳寺四十六代。宗純字は一休初めの名は宗覺、狂雲と號す。夢閑、騷驢、國景等の號あり。母は藤原氏。(後小松天皇の後宮に入り寵せらる。應永元年正月朔日生れ、大徳寺宗臺の弟子と爲り、佛道を修行し、傍ら書畫及び狂歌を能くす。文明十三年十一月二十一日寂す。年八

一色駿河守

十八。【八七】清新なる氣分。足利義昭の侍臣。【二八】外交上に於ける勝頼の位置。】

一色義定

中篇掲出。【四】山陰方面。【四二】信忠信州に入る。】

一色義道

丹後の領主。義幸の子。父の後を繼て左京大夫に任ず。天正六年九月、

一色義長

細川藤孝、明智光秀の攻むる所と爲りて之に死す。【四】山陰方面。】丹後田邊城の留守と爲り、天正八年、細川藤孝の攻むる所と爲り、之に降る。【四】山陰方面。】

伊藤彦作

織田信長の臣。本能寺の變に死す。【七九】本能寺打入。】

糸若

織田信長の小姓。【一七】信長の馬捕。】

稻葉一鐵

前中篇掲出。【六四】信長の凱旋。【七三】何故に謀反したる乎。】

井上平右衛門

吉川元春の臣。【五三】馬山の對陣。】

猪子兵介

前中篇掲出。【八〇】信忠の死。】

今川氏親

前中篇掲出。【九三】五山禪宗の末期。】

今川氏眞

前中篇掲出。【二七】家康と勝頼の對抗。【二九】謙信死後の御家騒動。】

今川孫二郎

織田信長に仕へて小姓と爲る。【七九】本能寺打入。】

今川義元

前中篇掲出。【三一】家康と築山殿。【九三】五山禪宗の末期。】

今田經忠

吉川元春の臣。【四】山陰方面。】

今福筑前守

武田勝頼の臣。天正十年三月織田信忠の殺す所と爲る。【四二】信忠信州に入る。【四三】高遠城の劇戦。【四六】勝頼の最後。】

岩

織田信長の仲間。【七九】本能寺打入。】

因果居士

未だ姓名を詳にせず。或は云ふ、奈良の人。華嚴學に通ず。【二二】、【二三】安土宗論。】

般

帝辛は般の三十世。子姓帝乙の子。天下之を紂と曰ふ。在位三十三年。周武王の滅す所と爲る。【七一】何故に謀反したる乎。】

紂

ウ

ウインセント

日本人の教名。未だ其の本名を詳にせず。【九九】信長に對する宣教師の評。】

上杉景勝

中篇掲出。【二九】外交上に於ける勝頼の位置。【三〇】有無交換。【四二】信忠信州に入る。【五六】信長と北國。【五七】信長と上杉景勝。【七四】何故に謀反したる乎。【八二】信長の事業。】前中篇掲出。【五】本願寺窮境に落つ。【二八】外交上に於ける勝頼の位

上杉謙信

上杉憲政

置。【二九】謙信死後の御家騒動。【三〇】有無交換。【五六】信長と北國。【八二】信長の事業。【八三】統一の志望者は誰ぞ。【八五】實力の世の中。】

上杉晴景

前篇掲出。【二九】謙信死後の御家騒動。【三〇】有無交換。】小字は六郎。越後の人。長尾爲景の長子。弟景虎、攻めて之を殺すと云ふ。一説に、政景、上杉謙信を滅して晴景を立てんと欲し、野尻湖に溺死す。其の後謙信、晴景を幽し、明年病死す。【二九】謙信死後の御家騒動。】

魚住勝七

織田信長に仕へて小姓と爲る。【七九】本能寺打入。】

宇喜多直家

前中篇掲出。【六五】秀吉と中國陣。】

宇喜多秀家

本名は家氏、八郎と稱す。直家の子。幼時、豊臣秀吉取て子と爲す。文祿

征韓の役、元帥と爲る。慶長五年關原の役、西軍の總帥と爲り、徳川家康と戦て敗れ、逃れて八丈島に入り、剃髮して禮福と號し、寛文二年卒す。【(六五)秀吉と中國陣。(六六)高松の水攻。】

牛尾元貞

吉川元春の臣。【(四)山陰方面。(五)鳥取城の籠城。】

雲林院出羽守

織田信長の臣。【(七六)火事場泥坊平。】

エ、エ

江村專齋

京師の人。名は宗具、專齋は其の號。別に倚松庵と號す。別所氏の族。既在の子。曲直瀬宗巴に從て醫を學び、又洛閩の學を修む。儒醫を以て加藤清正に仕ふ。【(九六)信長と儒道。】未だ姓氏を詳にせず。天正八年、民を誣め、世を惑はすの罪に坐し、續

榮螺坊無邊

田信長の爲に誅せらる。【(八七)清新なる氣分。】

オ、ヲ

大内義隆

前中篇掲出。【(九〇)無意識の帝國主義實行者。(九三)五山禪宗の末期。(九四)宋學興隆の來歴。】

大江廣元

中篇掲出。【(八五)實力の世の中。】

大河内政局

中篇掲出。【(三八)高天神城の陥落。】

大久保忠教

前中篇掲出。【(三三)酒井忠次と信康。(三八)高天神城の陥落。】

大久保忠世

前中篇掲出。【(二七)家康と勝頼の對抗。(三三)酒井忠次と信康。(三四)信康の最後。(三五)徳川信康。(三八)高天神城の陥落。】

大鹽平八郎

名は後素、字は子起、中齋と號す。大阪の興力。天保八年、米價騰貴、市民饑死するものあり。乃ち黨を率

めて城代を襲ふ。事成らずして火を縱ちて自刃す。年四十六。【(九)教權と大阪。】

王 直

五峯と號す。支那歙縣の人。明末海賊の首領。【(九〇)無意識の帝國主義實行者。】

大塚孫三

織田信長に仕へて小姓と爲り、天正十年本能寺の變に死す。【(七九)本能寺打入。】

大塚又一郎

織田信長に仕へて小姓と爲り、天正十年本能寺の變に死す。【(七九)本能寺打入。】

大友宗麟

前中篇掲出。【(九九)信長に對する宣教師の評。】

太田牛一

前中篇掲出。【(三)三木城の陥落。(七)退去と否退去。(八)石山の最後。(一〇)信長自筆の折檻書。(一六、一八)信長の馬揃。(二三、二五)安土宗論。】

大脇傳介

日蓮宗の信仰者。天正七年五月廿七日、安土宗論の張本人。織田信長の爲めに死刑に處せらる。【(二二、二四、二五、二六)安土宗論。】

小笠原長善

前中篇掲出。【(三八)高天神城の陥落。】

小笠原信嶺

幼字は十郎三郎、掃部頭と稱す。信濃守康政の裔。世々信州松尾城に居り、武田氏に屬す。天正九年、織田信忠に降り、信長の死後、徳川家康に屬す。慶長三年卒す。年五十二。

岡部丹後

【(四二) 信忠信州に入る。】
武田勝頼の臣。天正九年三月、大久保忠教の殺す所と爲る。【(三八) 高天神城の陥落。】

小嶋元清

伯耆の人。南條元續の弟。初め毛利氏に屬し、後ち羽柴秀吉に歸す。

小河愛平

【(四) 山陰方面(五三) 馬山の對陣。】
織田信長に仕へて小姓と爲り、天正十年本能寺の變に死す。【(七九) 本能寺打入。】

奥平信昌

奥平貞昌也。中篇掲出。【(三一) 家康と築山殿。】

小倉松壽

織田信長に仕へて小姓と爲り、天正十年本能寺の變に死す。【(七九) 本能寺打入。】

小栗二右衛門

織田信長の臣。【(六四) 信長の凱旋。】

小澤六郎三郎

織田信長の臣。【(八〇) 信忠の死。】

織田勝長

前篇掲出。【(三九) 武田氏の亡徴。】
名は長益、信秀の十一子。信長の弟。信長の死後、豊臣秀吉に仕へ、髮を削り有樂齋如庵と號す。初め茶道を千利休に學び、後ち茶家の宗匠と稱せらる。元和七年十二月十三日卒す。年七十五。【(一六) 信長の馬揃。(四二) 信忠信州に入る。(四四) 漸く最後に迫る。(八九) 平民主義の實行者。】

織田源五

織田勝長の通稱。前篇掲出。【(四六) 勝頼の最後。】

織田源三郎

前中篇掲出。【(一五) 信長の道樂。(一六、一八) 信長の馬揃。(六一) 伊賀の平定。(八九) 平民主義の實行者。】

織田信雄

前篇掲出。【(一六) 信長の馬揃。(六一) 伊賀の平定。(八九) 平民主義の實行者。】

織田信兼

前篇掲出。【(一六) 信長の馬揃。(六一) 伊賀の平定。(八九) 平民主義の實行者。】

織田信澄

中篇掲出。【(一六) 信長の馬揃。(二二) 竹中重治。(四) 山陰方面。(五) 本願寺窮境に落。(六) 本願寺側の説和理由。(七) 退去と否退去。(八) 石山の最後。(九) 教權と大阪。(一〇、一一) 信長自筆の折檻書。(一二、一三) 信長の殘忍性。(一四) 信長と皇室。(一五) 信長の道樂。(一六、一七、一八) 信長の馬揃。(一九) 經濟家としての信長。(二〇) 信長の檢地。(二一、二二、二三、二四、二五、二六) 安土宗論。(二七) 家康と勝頼の對抗。(二八) 外交上に於ける勝頼の位置。(二九) 謙信死後の御家騒動。(三〇) 有無交換。(三一) 家康と築山殿。(三二) 築山殿の陰謀。(三三) 酒井忠次と信康。(三四) 信康の最後。(三五、三六) 徳川信康。(三七、三八) 高天神城の陥落。】

織田信孝

○(信長の檢地。(二) 安土宗論。(六一) 伊賀の平定。(七〇) 家康の安土參向。(七三) 何故に謀反したる乎。】
前中篇掲出。【(一六、一八) 信長の馬揃。(五五) 秀吉と信長。(五九) 信長と四國。(六〇) 信長と高野山。(六四) 信長の凱旋。(六八) 講和は何れより發議したる。(八一) フロエーの報告。】

織田信忠

前中篇掲出。【(一) 三木城の窮迫。(一五) 信長の道樂。(一八) 信長の馬揃。(一九) 經濟家としての信長。(二六) 安土宗論。(四一) 信長の軍配。(四二) 信忠信州に入る。(四三) 高遠城の劇戰。(四五、四六) 勝頼の最後。(四八) 惠林寺炎上。(四九) 武田氏舊領土の處分。(六九) 織田同盟二十餘年。(八〇) 信忠の死。(八一) フロエーの報告。(八九) 平民主義の實行者。】

織田信長

前中篇掲出。【(一) 三木城の窮迫。(二) 竹中重治。(四) 山陰方面。(五) 本願寺窮境に落。(六) 本願寺側の説和理由。(七) 退去と否退去。(八) 石山の最後。(九) 教權と大阪。(一〇、一一) 信長自筆の折檻書。(一二、一三) 信長の殘忍性。(一四) 信長と皇室。(一五) 信長の道樂。(一六、一七、一八) 信長の馬揃。(一九) 經濟家としての信長。(二〇) 信長の檢地。(二一、二二、二三、二四、二五、二六) 安土宗論。(二七) 家康と勝頼の對抗。(二八) 外交上に於ける勝頼の位置。(二九) 謙信死後の御家騒動。(三〇) 有無交換。(三一) 家康と築山殿。(三二) 築山殿の陰謀。(三三) 酒井忠次と信康。(三四) 信康の最後。(三五、三六) 徳川信康。(三七、三八) 高天神城の陥落。】

(三九、四〇)武田氏の亡徴。(四一)信長の軍配。(四二)信忠信州に入る。(四三)高遠城の劇戦。(四四)漸く最後に迫る。(四六)勝頼の最後。(四七)武田氏亡滅の責任者。(四九)武田氏舊領土の處分。(五〇)鳥取城の籠城。(五一)秀吉鳥取城に薄る。(五二)鳥取城の陥落。(五三)馬山の對陣。(五四、五五)秀吉と信長。(五六)信長と北國。(五七)信長と上杉景勝。(五八、五九)信長と四國。(六〇)信長と高野山。(六一)伊賀の平定。(六二、六三、六四)信長の凱旋。(六五)秀吉と中國陣。(六六)高松の水攻。(六七)高松城死地に陥る。(六八)講和は何れより發議したる。(六九)織徳同盟二十餘年。(七〇)家康の安土參向。(七一)不可解乎可解乎。(七二、七三、七

織田信秀

(四)何故に謀反したる乎。(七五)秀の決心。(七六)火事場泥坊乎。(七七、七八、七九)本能寺打入。(八〇)信忠の死。(八一)フロエーの報告。(八二)信長の事業。(八三)統一の志望者は誰ぞ。(八四)統一の氣運に乗ず。(八五)實力の世の中。(八六)人材競進時代の成功者。(八七)清新なる氣分。(八八)直情徑行。(八九)平民主義の實行者。(九〇、九一)無意識の帝國主義實行者。(九二)當時の高襟。(九三)五山禪宗の末期。(九五、九六)信長と儒道。(九七)面白き時代。(九八)何故に成功したる乎。(九九、一〇〇)信長に對する宣教師の評。(一〇一)實力の英雄。(一〇二)自恃の英雄。】

前篇掲出。(五五)秀吉と信長。】

織田信行

前篇掲出。(一一)信長と殘忍性。(一二)自恃の英雄。】

落合小八郎

織田信長に仕へて小姓と爲り、天正十年本能寺の變に死す。(七九)本能寺打入。】

小幡因幡守

仁科信盛の臣。(四三)高遠城の劇戦。】

小幡五郎兵衛

仁科信盛の臣。(四三)高遠城の劇戦。】

小幡清左衛門

仁科信盛の臣。(四三)高遠城の劇戦。】

小幡豊後守

武田勝頼の臣。(四六)勝頼の最後。】

小原丹後守

武田勝頼の臣。(四二)信忠信州に入る。(四六)勝頼の最後。】

小原肥前守

前篇掲出。(六三)信長の凱旋。】

生石中務少輔

小早川隆景の臣。(一)三木城の窮迫。(六五)秀吉と中國陣。】

於福

徳川信康の仕女。(三三)酒井忠次と

正親町天皇

前中篇掲出。(四八)惠林寺炎上。(八六)人材競進時代の成功者。】

お萬の方

前篇掲出。(三六)徳川信康。】

梅若太夫

能役者。梅津景久。橘諸兄九世の孫。梅津兵庫頭友時の後。丹波に居る。織田信長の時、初めて梅若太夫と稱す。(七〇)家康の安土參向。】

小山田大學

仁科信盛の臣。(四三)高遠城の劇戦。】

小山田出羽守

武田勝頼の臣。天正十年三月七日、織田信忠の殺す所と爲る。(四六)勝頼の最後。】

小山田信茂

前中篇掲出。(三二)築山殿の陰謀。(四五)勝頼の最後。(四七)武田氏亡滅の責任者。】

小山田昌行

前中篇掲出。(四三)高遠城の劇戦。】

【力行】

力

垣屋駿河守

羽柴秀吉の臣。〔五一〕秀吉鳥取城に薄る。】

柏原 鍋

織田信長に仕へて小姓と爲る。天正十年本能寺の變に戦死す。〔七九〕本能寺打入。】

春日河内守

仁科信盛の臣。天正十年三月戦死す。〔四三〕高遠城の劇戦。】

片岡助兵衛

清水宗治の臣。〔六七〕高松城死地に陥る。】

勝頼夫人北條氏

北條氏康の女。武田勝頼に嫁す。天正十二年勝頼の天目山に走るや、夫人之に従ひ、去らず。左右皆斃るゝを聞き、佛名を唱へ、勝頼の傍に殉す。時に年十九。〔四七〕武田氏亡滅の責任者。】

桂 廣 繁

小字は辨慶丸、少輔五郎、民部大夫

賀藤兵庫頭

織田信長の臣。〔七六〕火事場泥坊乎。】

加藤光泰

姓は藤原氏、小字は作内、後ち權兵衛と更む、美濃の人。織田信長に仕へ、後ち豊臣秀吉に屬す。征韓の役、兵を率ゐて海に航し、文祿四年八月、朝鮮に卒す。年五十九。〔五一〕秀吉鳥取城に薄る。】

金森五郎八

中篇掲出。〔四一〕信長の軍配。〔五六〕信長と北國。〔一〇二〕自恃の英雄。】

金森義入

織田信長に仕へて小姓と爲る。天正十年本能寺の變に戦死す。〔七九〕木

神子田正治

能寺打入。】
豊臣秀吉の臣。〔五一〕秀吉鳥取城に薄る。〔五三〕馬山の對陣。】

狩野永徳

中篇掲出。〔八九〕平民主義の實行者。】

狩野又九郎

織田信長に仕へて小姓と爲る。天正十年本能寺の變に戦死す。〔七九〕本能寺打入。】

項 羽

項籍字は羽、楚の下相の人。秦の末、吳中の子弟八千人を率ゐて兵を起し、秦を滅し、西楚の霸王と爲る。後ち漢王劉邦と覇を争ひ、垓下に敗れて、終に自刃す。年三十一。〔四五〕勝頼の最後。】

高坂彈正

前篇掲出。〔二八〕外交上に於ける勝類の位置。〔四七〕武田氏亡滅の責任者。】

河野善四郎

織田信忠の臣。天正十年、二條城に

於て戦死す。〔八〇〕信忠の死。】

鎌田新介

織田信忠の侍臣。〔八〇〕信忠の死。】

龜井玆矩

中篇掲出。〔四〕山陰方面。〔五三〕馬山の對陣。】

龜 姫

徳川家康の長女。關口夫人築山殿の生む所。奥平信昌に嫁す。〔三一〕家康と築山殿。】

蒲生右兵衛大輔

前中篇掲出。〔七六〕火事場泥坊乎。】

蒲生忠三郎

中篇掲出。〔一五〕信長の道樂。】

河崎金右衛門

織田信長の臣。〔八六〕人材競進時代の成功者。】

河田豊前

上杉景勝の老臣。越中魚津の城を守り、織田氏の兵と戦て功あり。〔五六〕信長と北國。】

河尻秀隆

中篇掲出。〔四二〕信忠信州に入る。〔四三〕高遠城の劇戦。〔四九〕武田氏舊領土の處分。〔八五〕實力の世の中。

毫攝寺善海

江戸三河島法界寺の僧。【(七)】退去と否退去。】

顔振泉

明末の海賊【(九〇)】無意識の帝國主義實行者。】

神林十兵衛

仁科信盛の臣。天正十年三月戦死。【(四三)】高遠城の劇戦。】

カトリオン

耶蘇會の師父。【(八一)】フロエーの報告。】

カストロ

日本人の教名。未だ其の氏名を詳にせず。【(九二)】當時の高嶽。】

キ

菊地重朝

姓は藤原氏。能登守に任じ、從四位下に叙せらる。爲邦の長子。嘗て聖廟を隈府に建つ。人稱して月松君と曰ふ。【(九四)】宋學興隆の來歴。】

菊姫

武田晴信の女。母は細川氏。上杉景勝に嫁す。慶長二年二月十六日逝く。

木澤長政

【(三〇)】有無交換。】
左京亮と稱す。攝津の人。初め畠山義英に従ひ、後ち細川晴元、又細川氏綱に隸す。天文十一年三月、紀人田邊重家の殺す所と爲る。【(九)】教權と大阪。】

熙春龍喜

東福寺二百十四世。法を天覺に嗣ぐ。文祿三年正月三日寂す。【(九三)】五山禪宗の末期。】

木曾義仲

中篇掲出。【(四一)】信長の軍記。【(四四)】漸く最後に迫る。】

木曾義昌

信濃木曾の人。源義仲十四世の孫。義在の子。伊豫守と稱し、又左馬頭と云ふ。世々、福島城を保つ。慶長元年卒す。【(四二)】信長の軍配。【(四九)】武田氏舊領士の處分。【(八八)】直情徑行。】
上杉景勝の臣。後ち景虎に隸す。【(二九)】謙信歿後の御家騒動。】

北莊景廣

北政所

豊臣秀吉の正室。尾張津島の人。淺野又右衛門の姪。淺野長政の従妹。幼名は彌々。母は同國朝日村の人。父詳ならず。或は云ふ、杉原七郎右衛門と云ふものなりと。秀吉薨するに及び、薙髮して高臺院湖月尼と號す。寛永元年九月十六日卒す。【(三一)】家康と築山殿。】

北若

吉川經家

織田信長に仕へて仲間と爲る。【(一七)】信長の馬揃。】
一に經宗、又は經久に作る。式部少輔と稱す。興經の従父弟。其の先は藤原武智麿より出づ。天正九年、羽柴秀吉の攻むる所と爲り、自殺す。【(四)】山陰方面。【(五〇)】鳥取城の籠城。【(五一)】秀吉鳥取城に薄る。【(五二)】鳥取城の陥落。【(六七)】高松城死地に陥る。】

吉川經言
吉川元長
吉川元春

義堂

木下重堅
木村重茲

中篇掲出。【(五三)】馬山の對陣。】
中篇掲出。【(五三)】馬山の對陣。】
中篇掲出。【(一)】三木城の窮迫。【(四)】山陰方面。【(五〇)】鳥取城の籠城。【(五一)】秀吉鳥取城に薄る。【(五三)】馬山の對陣。【(六七)】高松城死地に陥る。【(六八)】謙信は何れより發議したる。】
京都南禪寺の禪僧。義堂周信。空華道人と號す。夢窓國師に臨川寺に參し、機縁投契す。後ち諸名刹を歴遊して南禪寺に昇る。嘉慶二年四月三日寂す。年六十四。【(九四)】宋學興隆の來歴。】
豊臣秀吉の臣。【(五一)】秀吉鳥取城に薄る。】
一に重藤、重高、重之、重次に作る。初め小隼入正と稱し、後ち常陸介と改む、定詮の子。幼より豊臣秀吉に

仕へ、其寵する所と爲る。後ち關白秀次の事に坐して罪を獲。文祿四年七月、茨木大門寺に於て、自殺す。【五一】秀吉鳥取城に薄す。

木村次郎左衛門 織田信長の臣。【七六】火事場泥坊乎。

東本願寺第十二代。光佐の子。母は細川晴元の女。童名は茶々鷹。准后近衛前久の猶子。永祿元年九月十六日大阪に生れ、慶長十九年十月五日寂す。年五十七。【七七】退去と否退去。【八】石山の最後。

清原枝賢 宣賢の孫。【九六】信長と儒道。

部下兼俱の子。業忠の孫。宗賢養て嗣と爲す。主水正、大炊頭を歴て、藏人の直講に補せられ、後ち侍從に任じ、昇殿を聽さる。享祿二年薨。髮して宗武と號し、天文十九年九月越

清原秀賢

前に逝く。年七十六。【九六】信長と儒道。

吉良宣經

累代の名儒。後陽成天皇の時、明經博士と爲る。學識あり、屢々徳川家康の講筵に侍す。【九六】信長と儒道。【九七】源氏。伊豫守と稱す。土佐冠者希義の裔。土佐吾川郡弘岡城に居す。天文二十年、長曾我部元國を伐つ。軍中病に罹りて歸り、旬餘にして卒す。年三十八。【九四】宋學興隆の來歴。

吉良宣直

宣經の子。天文二十年、宣經の卒するや、父の封を襲き、土州弘岡城を治す。而かも禪法を嗜み、閑散に耽り、政治に勵精せず。本山梅慶の殺す所と爲る。【九四】宋學興隆の來歴。

吉良宣義

右近と稱す、土州弘岡城主宣經の從

ク

空海

弘法大師也。前篇掲出。【二〇】信長の檢地。【六〇】信長と高野山。

久々利龜

織田信長に仕て小姓と爲る。【七九】本能寺打入。

楠田忠兵衛

織田信長の臣。【七六】火事場泥坊乎。

楠木長安

一に長庵に作る。織田信長に仕へて祐筆と爲る。【一一】信長自筆の折檻書。【七〇】家康の安土參向。

國次

備中青江の刀匠。成次の子。【五五】秀吉と信長。

國久

備前長船の人。古刀の鍛工。【五五】秀吉と信長。

黒田孝高

中篇掲出。【二】竹中重治。【五一】秀吉鳥取城に薄る。【六六】高松城死地に陥る。【六八】講和は何れより發議したる。

黒田次右衛門

三河の人。織田信長の臣。【八六】人材競進時代の成功者。

快川國師

前篇掲出。【四八】惠林寺炎上。【九三】五山禪宗の末期。

桑原助六

織田信長の臣。【四六】勝頼の最後。【四七】島山昭高の子。天正九年高野山僧兵の將と爲り、織田信長に抗す。【六〇】信長と高野山。

花王院快翁

一は晴豊に作る。權大納言晴右の子。累進して准大臣從一位に至る。慶長七年十二月八日薨す。年五十九。

勸修寺時豊

【六】本願寺側の講和理由。【六】前篇掲出。【一〇〇】信長に對する宣教師の評。

クラスセー

【六】前篇掲出。【一〇〇】信長に對する宣教師の評。

ケ

桂菴玄樹

薩摩桂樹院の開山。玄樹字は桂菴、鳥陰と號す。周防山口の人。應永三十四年生れ。永正五年六月十九日、薩摩伊敷東歸庵に寂す。年八十二。著はす所、桂庵和尚家法倭訓あり。

滅敬

支那の醫師。或は云ふ、甲州の醫、誠慶なりと。【(三二)築山殿の陰謀。】

玄惠法師

前篇掲出。【(九四)宋學興隆の來歴。】蜀主姓は劉、名は備、字は玄徳、涿郡涿縣の人。後漢の末、義兵を擧げ、益州の劉璋を滅し、立て漢中王と爲る。曹丕漢を棄ふに及び、終に帝位に即く。崩する年六十三。世、之を先主と稱す。【(二)竹中重治。】

顯如

前中篇掲出。【(五)本願寺窮境に落

顯如夫人

北方と號す。細川晴元の女。或は云ふ、三條公頼三女あり。長女晴元に歸す、晴元次の二女を養て、己れが子と爲す。仲女武田晴信に嫁し、季女、顯如に適くと。文祿元年十一月廿五日薨歿す。法名は教光院。慶長三年正月十六日逝く。【(五)本願寺窮境に落つ。】

小池備後守

美濃の人。織田信長の臣。【(八六)人材競進時代の成功者。】

小市若

織田信長に仕へて中間と爲る。【(一七)信長の馬揃。】

孔明

前篇掲出。【(二)竹中重治。】

小駒若

織田信長に仕へて仲間と爲り、天正十年、本能寺の變に戦死す。【(一七)信長の馬揃。】

吳子

衛人。魯に往きて兵法を學び、尋て魏の文侯に事へ、其の將と爲る。後ち楚に奔り悼王の相と爲り、内亂に死す。吳子四十八篇あり。今六篇を存す。【(九四)宋學興隆の來歴。】

小島六郎左衛門

中篇掲出。【(五七)信長と上杉景勝。】

小瀬甫菴

前中篇掲出。【(二)竹中重治。】

兒玉元良

本能寺打入。【(八五)實力の世の中。】

後藤喜三郎

【(八九)平民主義の實行者。】

小虎若

【(九六)信長と儒道。】

後奈良天皇

爲る。【(七九)本能寺打入。】

小西行長

前篇掲出。【(九三)五山禪宗の末期。】

近衛前久

通稱は彌太郎。泉界浦の人。春徳の子。備前岡山の買人某の養子と爲る。豊臣秀吉に仕へ、功を以て肥後半國を食み、宇土城に治す。文祿の役、征韓の先鋒と爲り、平壤に入り、大に明韓の軍を破る。後ち慶長五年、關原の役、石田三成と共に徳川家康と戦ひ、敗れて後ち擒に就き、京師に斬らる。【(五〇)鳥取城の籠城。】

近衛信基

【(六)本願寺側の講和理由。】

號す。近衛流書風の祖。内大臣に歴任し、尋て左大臣と爲り、從一位に叙せらる。文祿元年左大臣を辭す。慶長六年復た左大臣に任じ、詔して關白長者と爲る。十九年正月薨す。年五十。【(一四)信長と皇室。】

小早川隆景

中篇掲出。【(一)三木城の窮迫。(五〇)鳥取城の籠城。(五三)馬山の對陣。(六五)秀吉と中國陣。(六六)高松の水攻。(六七)高松城死地に陥る。(六八)講和は何れより發議したる。】

ごぼう殿

織田信長の季子。小字は御坊丸。永祿三年武田信玄に質たり。天正九年甲州より安土に歸るや、元服して名を勝長と改め、字を源三郎と稱し、犬山城主と爲る。本能寺の變に戦死す。【(六四)信長の凱旋。】

小森與三左衛門

別所長治の臣。【(三)三木城の

【サ行】

最澄

傳教大師也。前篇掲出。【(六〇)信長と高野山。】

齋藤内藏介

名は利三、美濃の人。父伊豆守、明智光秀の妹を娶りて之を生む。齋藤家に仕へて稻葉一徹の女婿たり。故ありて身を光秀に托す。本能寺の變、光秀を諫むれども聽かず。山崎の戦に敗れ、囚はれて光秀の屍と同じく粟田口に磔せらる。【(五八)五九)信長と四國。(七三)何故に謀反したる乎。(七六)火事場泥坊乎。(七七)七八)本能寺打入。(八〇)信忠の死。】

齋藤龍興

前篇掲出。【(二)竹中重治。】

齋藤道三

前篇掲出。【(二二)安土宗論。】

坂井右近太夫

前篇掲出。【(八六)人材競進時代の成功者。】

坂井越中

織田信忠の臣。天正十年六月、二條城に戦死す。【(八〇)信忠の死。】

酒井忠次

前中篇掲出。【(二八)外交上に於ける勝頼の位置。(三三)酒井忠次と信康。(三四)信康の最後。(三五)三六)徳川信康。(六四)信長の凱旋。(七〇)家康の安土参向。】

逆川甚五郎

織田信忠の臣。本能寺の變、信忠に從て戦死す。【(八〇)信忠の死。】

榊原康政

前中篇掲出。【(三六)徳川信康。】

境與三右衛門

吉川元春の臣。【(五一)秀吉鳥取城に薄る。】

策彦和尙

前篇掲出。【(九〇)無意識の帝國主義實行者。(九三)五山禪宗の末期。】

佐久間信盛

前中篇掲出。【(五)本能寺變に落ち。(六)本能寺側の講和理由。(七)退去

佐久間盛政

と否退去。(一〇)一一)信長自筆の折檻書。(三一)家康と築山殿。(四七)武田氏亡滅の責任。(四九)武田氏舊領士の處分。(七二)何故に謀反したる乎。(八五)實力の世の中。(八八)直情徑行。(八九)平民主義の實行者。】

佐久間與六郎

中篇掲出。【(七六)火事場泥坊乎。】

櫻井傳七

織田信忠の臣。天正十年六月、本能寺の變、二條城に戦死す。【(八〇)信忠の死。】

佐々内藏介

中篇掲出。【(五七)信長と上杉景勝。】

佐々成政

前中篇揭出【(五六)信長と北國】
眞田昌幸 前篇揭出【(四五)勝頼の最後】

サウオナローラ

伊太利の宗教改革家。千四百九十八年九月二十一日、伊太利フェルラ、に生れ、千五百九十八年五月二十三日、フロレンスに於て死刑に處せらる。【(四八)惠林寺炎上】
前中篇揭出【(八四)統一の氣運に乗ず】

撒美 惠

シ

鹿足元忠

毛利元就に任へて、護衛隊長と爲る。天正九年八月、羽柴秀吉の軍と戦て死す。【(五一)秀吉鳥取城に薄る】

篠岡平右衛門

織田信長の臣。【(四六)勝頼の最後】
篠川兵庫 織田信忠の臣。天正十年六月、二條

柴田伊賀守

織田信長の臣。【(一八)信長の馬揃】
柴田因幡守 上杉景勝の臣。【(五七)信長と上杉景勝】

柴田勝家

前中篇揭出【(三)三木城の陥落】
【(一〇)信長自筆の折檻書】
【(一一)信長の殘忍性】
【(一五)信長の遊樂】
【(一七)信長と北國】
【(一八)信長と馬揃】
【(四二)信忠信州に入る】
【(五四)秀吉と信長】
【(五六)信長と北國】
【(五七)信長と上杉景勝】
【(七三、七四)何故に謀反したる乎】
【(八二)信長の事業】
【(八五)實力の世の中】

柴田三左衛門尉

子 房

織田信長の臣。【(一八)信長の馬揃】
張良字は子房。其の先は韓人。漢高祖を輔けて覇業を成し、後ち留侯に封せらる。【(二)竹中重治】
【(八〇)信

鹽川吉太夫

忠の死。
織田信長の臣。【(六八)講和は何れより發議したる】

島津忠昌

陸奥守立久(一)に春久に作る(一)の子。通稱は又三郎、修理進と稱し、陸奥守に叙せらる。永正五年二月十五日卒す。年四十六。【(九四)宋學興隆の來歴】

島津義久

中篇揭出。【(八三)統一の氣運に乗ず】

清水長左衛門

名は宗治。備中高松の城主。初め備中沖郡の方伯石川左衛門佐の嗣と爲る。左衛門佐死して子無く、議論紛々たり。長左衛門一州を鎮定し、小早川隆景に屬して羽柴秀吉の軍を拒き、克たずして自殺す。年四十五。【(六五)秀吉と中國陣】
【(六六)高松の水攻】
【(六七)高松城死地に陥る】

下石彦右衛門

【(六八)講和は何れより發議したる】
織田信忠の臣。天正十年六月、二條城に戦死す。【(八〇)信忠の死】

下條信氏

前篇揭出。【(四二)信忠信州に入る】

下間丹後

本願寺の坊官。名は光頼。法名は心勝。丹後法橋と號す。頼慶の嫡子。【(七)退去と否退去】

下間仲之

前篇揭出。【(六)本願寺側の講和理由】
【(七)退去と否退去】

下間頼廉

前篇揭出。【(六)本願寺側の講和理由】

朱 子

朱熹、字は元晦。晦菴と稱す。建寧の人。世之を朱子と稱す。宋の慶元六年卒す。年七十。諡して文と曰ふ。理宗の朝、大師を贈り、後ち徽國公に封し、孔子の廟庭に從祀す。【(九三)五山禪宗の末期】
【(九四)宋學興

周武王

隆の來歴。周の第一世、姬姓、名は發、文王の子。太公望師と爲り、周公旦輔と爲り、召公畢公の徒王を左右して文王の業を修む。【七二】何故に謀反したる乎。】

徐海

明末の海賊。【九〇】無意識の帝國主義實行者。】

鍾會

鍾繇の子。魏の末、鎮西將軍と爲り、鄧艾と共に蜀を征し、異志ありて兵に死す。【四二】信忠信州に入る。】

淨嚴院長老

紀伊高野山傳法院の座主。日禪字は淨嚴。密學に通じ、北室の身禪に從て小野傳法の灌頂を受け、其の蘊を盡す。推されて傳法院座主と爲る。【二六】安土宗論。】

證如

本願寺第十代。光教證如と號す。光融法印の長子。第九世光兼上人の孫。

紹巴

母は顯證寺兼譽の女。永正十三年十一月二十日生れ、天正二十三年八月十三日歿す。年三十九。【九】教權と大阪。】
里村紹巴。本姓は松村氏。臨江齋父は半醒子と號す。南都の人。連歌の名家、周桂に學び遂に一宗を成す。慶長中關白秀次の事に坐して三井寺に竄せられ、後ち赦され、慶長五年逝く。【七五】光秀の決心。【七六】火事場泥坊乎。】

神保氏春

越中守と稱す。越中富山の城主。初め上杉氏に屬し、後ち織田信長に歸す。【五六】信長と北國。【五七】信長と上杉景勝。】

新見春信

吉川元春の臣。【五一】秀吉鳥取城に薄る。】

新羅三郎義光

前中篇掲出。【四七】武田氏亡滅の薄る。】

新六

責任者。織田信長に仕へて仲間と爲る。【七九】本能寺打入。】

シヤレウオ

耶蘇會の宣教師。【九二】當時の高襟。【一〇〇】信長に對する宣教師の評。】

ス

瑞龍院

名は智子。木下彌右衛門の女。豊臣秀吉の異父妹。【一】に姉に作る。三好笑岩に嫁し、三子を生む。【五九】信長と四國。】

末近信賀

小早川隆景の臣。【六六】高松の水攻。】

菅屋角藏

織田信長に仕へて小姓と爲る。天正十年本能寺に戦死す。【七九】本能寺打入。】

菅谷九右衛門

中篇掲出。【一六】信長の馬揃。【一

菅屋長頼

前篇掲出。【五六】信長と北國。】
姓は平氏、七郎左衛門と稱す。尾張の人。家利の子。天正中羽柴秀吉に從て、播磨を伐ち、高松城陥るに及び、之を守る。十一年近江坂本城に從り、京師の庶務を掌る。尋て福知山城に徙り、二百石を食む。十二年九月卒す。年五十四。【五一】秀吉鳥取城に薄る。【五二】鳥取城の陥落。】

杉原家次

前篇掲出。【五三】馬山の對陣。】

杉原盛重

中篇掲出。【五三】馬山の對陣。】

薄田與五郎

織田信長に仕へて小姓と爲る。天正十年本能寺に戦死す。【七九】本能寺打入。】

諏訪勝右衛門

仁科信盛の臣。天正九年三月、高遠城に戦死す。【四三】高遠城の劇戦。】

セ

惺 窩

藤原惺窩名は肅、字は歛夫、惺窩と號す。別に北肉山人、柴立子、廣半窩の號あり。中納言定家十三世の孫。參議爲純の子。初め祝髮して僧と爲り、葬と稱し、妙壽院と號す。後ち儒に歸し、洛陽の説を唱ふ。元和五年九月十二日逝く。年五十九。著はす所惺窩文集、文章達德錄等あり。【九四】宋學興隆の來歴。】

清野美作守 關可平次

武田勝頼の臣。【四六】勝頼の最後。】
織田信長の臣。【四六】勝頼の最後。】

リ

千 王

長曾我部國親の小字。中篇掲出。【五八】信長と四國。】

千 福遠江守

前篇掲出。【九三】五山禪宗の末期。】
織田信長の臣。【七六】火事場泥坊手。】

雪 齋長老

關十郎右衛門

前篇掲出。【三一】家康と築山殿。】
織田信忠の臣。【四八】惠林寺炎上。】

關口親永

祖父江五郎右門

織田信長の臣。【七六】火事場泥坊手。】

孫 子

孫武は齊人。所謂孫子なり。兵法を以て吳王闔廬に事へ、西強楚を破り、北、齊魯を威す。兵法十三篇を著はす。【九四】宋學興隆の來歴。】

【夕行】

夕

高木主水正

名は正次、小字は善二郎。主水正と稱す。清秀の子。參河の人。徳川家康に屬し、功を以て一萬石を食分、河内丹南の地を賜ふ。【八六】人材競進時代の成功者。】

高山右近

中篇掲出。【五一】秀吉鳥取城に薄る。【六八】講和は何れより發議したる。】

瀧川一益

前中篇掲出。【一五】信長の道樂。【二〇】信長の檢地。【四九】武田氏舊領士の處分。【五七】信長と上杉景勝。【七三】何故に謀反したる乎。】

瀧川儀太夫

織田信長の臣。【四六】勝頼の最後。】
前篇掲出。【四二】信忠信州に入る。【四六】勝頼の最後。【六一】伊賀の平定。【八五】實力の世の中。】

瀧川左近

澤 彦

前篇掲出。【九三】五山禪宗の末期。】
前中篇掲出。【一七】信長の馬揃。【七〇】家康の安土參向。【九〇】無意識の帝國主義實行者。】

武井夕菴

前中篇掲出。【五】本願寺窮境に落つ。【二七】家康と勝頼の對抗。【二八】外交上に於ける勝頼の位置。【二九】謙信没後の御家騷動。【三〇】有無交換。【三一】家康と築山殿。【三二】築山殿の陰謀。【三三】酒井忠次と信康。【三四】信康の最後。【三五】徳川信康。【三七】三十八高天神城の陥落。【三九】四〇】武田氏の亡微。【四一】信長の軍配。【四三】高遠城の劇戦。【四四】漸く最後に迫る。【四五】四六勝頼の最後。【四七】武田氏亡滅の責任者。【四九】武田氏舊領士の處分。【五四】

武田勝頼

前篇掲出。【九三】五山禪宗の末期。】
前中篇掲出。【一七】信長の馬揃。【七〇】家康の安土參向。【九〇】無意識の帝國主義實行者。】

武田喜太郎

秀吉と信長。(五七)信長と上杉景勝。(六三)信長の凱旋。(六八)講和は何れより發議したる。(七〇)家康の安土參向。(七二)何故謀反にしたる乎。(八四)統一の氣運に乗ず。【織田信長に仕へて小姓と爲る。【七九)本能寺打入。】

武田上野介

名は信就。武田信龍の子。【(四三)高遠城の劇戰。】

武田佐吉

織田信長の臣。天正七年、男山八幡宮造營の奉行と爲る。【(一九)經濟家としての信長。】

武田次郎

信豐の子。【(四三)高遠城の劇戰。】

武田信玄

前中篇揭出。【(五)本願寺窮境に落つ。(二八)外交上に於ける勝頼の位置。(二九)謙信歿後の御家騒動。(三〇)有無交換。(三八)高天神城の陥落。(三九、四〇)武田氏の亡徴。(四一)信

武田信勝

長の軍配。(四三)高遠城の劇戰。(四六)勝頼の最後。(四八)惠林寺炎上。(六三)信長の凱旋。(八二)信長の事業。(八三)統一の志望者は誰ぞ。(八五)實力の世の中。(九三)五山禪宗の末期。【

武田信繁

前中篇揭出。【(四三)高遠城の劇戰。】

武田信綱

前中篇揭出。【(四二)信忠信州に入る。(四三)高遠城の劇戰。(四六)勝頼の最後。】

武田信友

一に信政に作る。武田信虎の第九子。左衛門佐と稱し、安藝守に叙せらる。【(四三)高遠城の劇戰。】

武田信豐

前中篇揭出。【(四一)信長の軍配。(四

武田信虎

三)高遠城の劇戰。(四四)漸く最後に向ふ。(四五、四六)勝頼の最後。(五七)武田氏亡滅の責任者。(七〇)家康の安土參向。【

竹中重門

前中篇揭出。【(一)竹中重治。】

竹中重治

前中篇揭出。【(一)竹中重治。(三)三木城の陥落。(五四)秀吉と信長。】

建部紹智

日蓮宗の信仰者。天正七年五月廿七日、安土宗論に坐し、織田信長の爲に、死刑に處せらる。【(二一、二五、二六)安土宗論。】

谷衛友

姓は源氏。大膳と稱す。美濃席田郡伊志良の人。伯父谷野綱衛に養はれて江州甲賀郡長野邑に居る。後ち父の許に還り谷野と稱し。尋て甲賀郡中の地名に因て谷と改む。織田信長

谷衛好

に屬し、天正七年羽柴秀吉に從て別所長治を攻め、奮戦して之に死す。年五七。【(一)三木城の窮迫。】

種田龜

字は甚太郎。衛友の子。豊臣秀吉に屬し戦功あり。關原の役、石田三成に屬し、戦後、赦されて舊邑丹波山家の一萬五千石を賜ふ。寛永四年卒す。年六十五。【(一)三木城の窮迫。】

種田春

織田信長に仕へて小姓と爲る。【(七九)本能寺打入。】

團景春

通稱は平八、織田信長に仕へ、功を以て美濃岩村に封ぜらる。【(四二)信忠信州に入る。(四三)高遠城の劇戰。(四九)武田氏舊領士の處分。(八〇)信忠の死。】

中巖圓月

上總吉祥寺の開山。姓は土屋氏。相模

中峰和尙

鎌倉の人。永和元年正月八日寂す。年七十六。著はす所、日本紀、東海瀕集五卷あり。【九四】宋學興隆の來歴。【九〇】無意識の帝國主義實行者。【九〇】無意識の帝國主義實行者。姓は孫氏、鎌塘の人。法を天目高峯妙に嗣ぐ。元の至治三年八月十日寂す。年六十一。諡して普應國師と號す。

長景連

前篇掲出。【五七】信長と上杉景勝。【五七】信長と上杉景勝。元親の長子。小字は福三郎。天正十四年十月、島津氏と戦ひ、戸次川の役に死す。【五八】信長と四國。

長曾我部信親

前篇掲出。【五七】信長と上杉景勝。元親の長子。小字は福三郎。天正十四年十月、島津氏と戦ひ、戸次川の役に死す。【五八】信長と四國。

長曾我部元親

中篇掲出。【五六】信長と北國。【五八、五九】信長と四國。【八三】統一の志望者は誰ぞ。【一】に兼序に作る。雄親の子。土佐の人。姓は秦氏。其先は秦始皇帝の

長曾我部元秀

後ち、普洞王より出づ。始め姓を波陀と賜ふ。其の後裔秦川勝任を土佐

長連龍

に受く。後ち任を辭し、長岡郡曾我部郷に居る。因て族稱とす。元秀父に繼ぎ宮内少輔と稱す。時に細川氏衰へ、三好氏興り、四國之が有と爲る。後本山梅慶、山田教道等の爲に誘殺せらる。【五八】信長と四國。【五八】信長と四國。姓は物部氏。能登の人。重連の子。幼にして僧と爲り、宗顯と號す。【一】に孝思に作る。後ち還俗して連龍と曰ひ、五郎左衛門と稱す。前田利家に仕へ、七尾城主と爲り、晩年怨庵と號す。【五七】信長と上杉景勝。【九〇】無意識の帝國主義實行者。明末の海賊。【九〇】無意識の帝國主義實行者。】

陳東

美濃の人。織田信長に仕ふ。【八六】人材競進時代の成功者。】

塚本小大膳

美濃の人。織田信長に仕ふ。【八六】人材競進時代の成功者。】

築山殿

前篇掲出。【三一】家康と築山殿。【三二】築山殿の陰謀。【三三】酒井忠次と信康。【三四】信康の最後。【三六】徳川信康。】

津田源三郎

織田信長の臣。【四四】漸く最後に迫る。】

津田源十郎

織田信長の臣。【七六】火事場泥坊乎。】

葛山三郎

武田信繁の弟。【四三】高遠城の劇戦。】

土屋右衛門尉

中篇掲出。【四六】勝頼の最後。】

土屋昌恒

惣藏と稱す。右衛門尉昌次の弟。武田勝頼に仕へて小姓と爲る。天正十年、勝頼に従て、田野に殉死す。【四七】武田氏亡滅の責任者。】

筒井順慶

中篇掲出。【六一】伊賀の平定。】

貞安長老

京師大開山。貞安、雲院の致蓮社聖

程子

天譽と號し、別に退魯と號す。姓は北條氏。相模の人。元和元年七月十七日寂す。【二二、二三、二六】安土宗論。】

程子

程頤字は伯淳。河南洛陽の人。宋の元豐八年卒す。年五十四。世、明道先生と稱す。程頤字は正叔。頤の弟。大觀元年卒す。年七十五。世、伊川先生と稱す。兄弟俱に孔子の廟庭に從祀せらる。【九三】五山禪宗の末期。【九四】宋學興隆の來歴。】

鄭芝龍

字は飛黃、泉州府南安縣の人。明の末、兵を擁して清に抗し、南方に據る。後ち勢衰へ、終に降り、刑せらる。【九〇】無意識の帝國主義實行者。】

鄭成功

初めの名は森、幼名は福松。父は芝龍、母は田川氏。明の末、清に抗し、南して臺灣に據り、猶明の正朔を改

めず。永明十六年病て卒す。年三十九。【九〇】無意識の帝國主義實行者。】

手島市之助
鐵叟景秀

毛利元就の臣。【一】三木城の窮迫。初、建仁寺の月舟に學び、元龜元年、南禪寺に視察し、天正八年十一月寂す。年八十五。【二二、二三、二六】安土宗論。【九三】五山禪宗の末期。】

寺田善右衛門

織田信長の臣。天正十年本能寺の變に死す。【八〇】信忠の死。】

天武天皇

初め大海人皇子と稱す。天智天皇の同母弟。在位十五年。朱鳥元年九月九日崩す。壽六十五。【六一】伊賀の平定。】

鄧 艾

字は士載、棘陽の人。魏に仕へて尙書たり。累遷して鎮西將軍都督隴右

藤 九 郎

諸軍事に至る。蜀を平げ、大尉に擢てらる。後、鍾會に構へられて蜀に死す。【四二】信忠、信州に入る。】

陶 朱

織田信長の仲間と爲る。【七九】本能寺打入。】

藤堂高虎

吳の范蠡、晩年、姓名を變して陶に之き朱公と稱し、天下の富を極む。世、陶朱公と曰ふ。【二】竹中重治。】
姓は藤原氏。近江の人。初め與右衛門と稱し、淺井氏に仕へ、去りて羽柴秀長に屬し、豊臣秀吉の起用する所と爲る。關原の亂、徳川家康に與みし、戦功あり。慶長十三年伊賀伊勢二十二萬石を食む。寛永七年十月卒す。年七十五。【五】秀吉鳥取城に薄る。【五三】馬山の對陣。】
織田信長の仲間。【七九】本能寺打入。】

藤 八

遠山景任
遠山新九郎

前篇掲出。【三九】武田氏の亡徴。【織田信長の臣。】【七六】火事場泥坊乎。】

遠山友政

姓は藤原氏。初め三郎兵衛と稱し、尋て久兵衛と改む。友忠の季子。苗木城に居る。其後徳川家康に屬し、元和元年十二月卒す。【四一】信長の軍配。】

徳 阿 彌

徳川親氏也。前篇掲出。【八五】實力の世の中。】

徳川家光
徳川家康

中篇掲出。【九五】信長と儒道。】
前中篇掲出。【一一】信長自筆の折檻書。【二六】安土宗論。【二七】家康と勝頼の對抗。【二八】外交に於ける勝頼の位置。【三〇】有無交換。【三一】家康と築山殿。【三二】築山殿の陰謀。【三三】酒井忠次と信康。【三四】信康の最後。【三五、三六】徳川信康。【三

七、三八）高天神城の陥落。【三九】武田氏の亡徴。【四一】信長の軍配。【四三】高遠城の劇戦。【四四】漸く最後に向ふ。【四六】勝頼の最後。【四七】武田氏亡滅の責任者。【四九】武田氏舊領土の處分。【五八】信長と四國。【六一、六三、六四】信長の凱旋。【六五】秀吉と中國陣。【六八】講和は何れより發議したる。【六九】織徳同盟二十餘年。【七〇】家康の安土參向。【七一】不可解乎可解乎。【七五】光秀の決心。【七七】本能寺打入。【八一】フロエーの報告。【八二】信長の事業。【八三】統一の志望者は誰ぞ。【八六】人材競進時代の成功者。【九六】信長と儒道。【九七】面白き時代。【九八】何故に成功したる乎。【九九】信長に對する宣教師の評。【一〇一】實力の

德川慶喜
德川忠長

英雄。(一〇二)自持の英雄。前篇掲出。(八)石山の最後。小字は國千代麿、秀忠の第三子。家光の同母弟。初め小諸に封じ、尋て甲斐に徙る。寛永元年、駿河、遠江に轉し、甲斐を併せて駿河に治す。心神狂亂、九年十一月六日自殺す。年二十七。(三五)德川信康。

德川信康

前中篇掲出。(一七)家康と勝頼の對抗。(三一)家康と築山殿。(三二)築山殿の陰謀。(三三)酒井忠次と信康。(三四)信康の最後。(三五、三六)德川信康。(六九)織徳同盟二十餘年。中篇掲出。(三五)德川信康。小字は於義。家康の第二子。秀忠の庶兄。豊臣秀吉の爲に養はれ、河内一萬石を給せらる。後ち越前六十七萬石を食み、權中納言に任す。慶長

德川秀忠
德川秀康

折檻書。(一二、一三)信長の殘忍性。(一四)信長と皇室。(一五)信長の道樂。(二〇)信長の檢地。(二六)安土宗廟。(三一)家康と築山殿。(四二)信忠信州に入る。(四三)高遠城の劇戰。(五〇)鳥取城の籠城。(五一)秀吉鳥取城に薄る。(五二)鳥取城の陥落。(五三)馬山の對陣。(五四、五五)秀吉と信長。(五九)信長と四國。(六〇)信長と高野山。(六二)信長の凱旋。(六五)秀吉と中國陣。(六六)高松の水攻。(六七)高松城死地に陥る。(六八)講和は何れより發議したる。(七一)不可解乎可解乎。(七四)何故に謀反したる乎。(七五)光秀の決心。(七七)本能寺打入。(八一)フロエーの報告。(八二)信長の事業。(八三)統一の志望者は誰ぞ。(八四)統一の氣運に乗

德川廣忠
德川廣姫

十二年閏三月卒す。年三十四。(三三)信康の最後。(三五、三六)德川信康。前篇掲出。(三三)酒井忠次と信康。織田信長の女。德川信康に嫁す。(三二)築山殿の陰謀。(三三)酒井忠次と信康。

豊臣秀次

小字は次兵衛、孫七郎と改む。豊臣秀吉の姪。秀吉養て子と爲す。實は三好武藏守吉房の子。天正十九年内大臣に任じ、尋て關白と爲る。文祿三年六月異圖あるに坐して、高野山に放ち、十五日自殺を命せらる。年二十八。(五九)信長と四國。前中篇掲出。(一)三木城の窮迫。(二)竹中重治。(三)三木城の陥落。(四)山陰方面。(六)本願寺側の諍和理由。(九)教權と大阪。(一〇)信長自筆の

豊臣秀吉

豊臣秀頼
虎若

ず。(八五)實力の世の中。(八六)人材競進時代の成功者。(八八)直情徑行。(八九)平民主義の實行者。(九一)無意識の帝國主義實行者。(九六)信長と儒道。(九七)面白き時代。(九八)何故に成功したる乎。(一〇一)實力の英雄。(一〇二)自持の英雄。前中篇掲出。(三一)家康と築山殿。織田信長の仲間。(七九)本能寺打入。

【十行】

長尾景虎
長尾政景

前中篇掲出。(五六)信長と北國。越前守と稱す。上杉謙信の姊夫。上田城主たり。初め謙信を滅せんと欲し、之と戦ひ、終に之に降る。(二九)謙信歿後の御家騒動。

長岡與一郎

細川忠興也。中篇揭出。【(六八)諷和は何れより發議したる。】

中川瀬兵衛

中篇揭出。【(四二)信忠信州に入る。(六八)諷和は何れより發議したる。】

長坂助一

織田信長に仕へ、男山八幡宮の造營を督す。【(一九)經濟家としての信長。】

長坂鈞閑

一に調閑又は長閑に作る。初めの名は頼弘、左近、後ち左衛門入道と稱す。甲斐の人。幼にして武田信玄に寵せられ、勝頼に至り、最も信任せらる。【(四五、四六)勝頼の最後。(四七)武田氏亡滅の責任者。(五七)信長と上杉景勝。(七二)何故に謀反したる乎。】

永田尹部少輔
中野又兵衛

中篇揭出。【(一五)信長の道樂。】
織田信長の臣。【(一一)信長自筆の折檻書。】

長光

前中篇揭出。【(一四)信長と皇室。】

中村一氏

中篇揭出。【(五一)秀吉鳥取城に遊る。(五三)馬山の對陣。】

中村善兵衛

吉川元春の臣。【(五一)秀吉鳥取城に遊る。】

中村春次

山名豐國の臣。【(四)山陰方面。(五〇)鳥取城の籠城。】

奈佐日本介

吉川經家に屬し、因幡丸山城の裨將と爲る。【(五二)鳥取城の陥落。】

鳴海助右衛門

織田信長の臣。【(七六)火事場泥坊乎。】

南化和尙

中篇揭出。【(九〇)無意識の帝國主義實行者。(九三)五山禪宗の末期。】

南條元續

小宇は勅兵衛、伯耆守と稱す。宗勝の子。伯耆の人。羽衣石の城主たり。初め尼子氏に屬し、後ち羽柴秀吉に歸す。征韓の役、兵を率ゐて海に航し、旨に忤ひて宇土に流さる。【(四)山陰

南浦文之

方面。(五三)馬山の對陣。】
前中篇揭出。【(九三)五山禪宗の末期。(九四)宋學興隆の來歴。】

奈翁

チャアレス・ホナバルテの子。西曆千七百六十九年八月十五日佛國コルシカの首都アジヤシオに生れ、千八百廿一年五月四日、セントヘレナ島の謫居に逝く。【(八五)實力の世の中。】

西尾庄小左衛門

織田信長の臣。【(六四)信長の凱旋。】

仁科信盛

一に盛信に作る。五郎と稱す。武田晴信の第四子。幼にして仁科家を嗣く。天正十年三月、高遠城を守り、織田信忠の攻むる所と爲り、城陥りて自殺す。【(四三)高遠城の劇戰。(四

日淵

六)勝頼の最後。】
京都妙滿寺第廿六代。久遠院と號す。道譽内外に聞え、寂光寺を創立し大に宗風を闡揚す。慶長十四年寂す。【(二三、二五)安土宗論。】

日光

一に日珖に作る。和泉堺妙國寺の開山。佛心院と號す。姓は伊達氏。天文元年堺に生れ、慶長三年八月二十七日寂す。年六十七。【(一一、一二、一三、一五)安土宗論。】

日諦

和泉堺の學僧。常光院と號す。壯年、南都及び比叡山に遊び、唯識教觀の旨を究む。天正十三年八月廿一日寂す。【(一一、一二、一五)安土宗論。】

丹羽右近

名は氏勝。尾張の人。姓は源氏。良峰氏。一色法印の孫。織田信長に屬し、右近大夫と稱す。岩崎城に居る。【(一一)信長の殘忍性。】

丹羽氏次

字は勘助。氏勝の子。初め織田信長に屬す。信長弒に遇ふに及び信雄に仕ふ。後ち徳川家康に歸し、參河伊保田一萬石を食む。慶長六年三月卒す。年五十二。【四二】信忠信州に入る。】

丹羽長秀

前中篇掲出【四】山陰方面。【五】信長の道樂。【二〇】信長の檢地。【五五】秀吉と信長。【五九】信長と四國。【六一】伊賀の平定。【六四】信長の凱旋。【六八】講和は何れより發議したる。【七〇】家康の安土參向。【八五】實力の世の中。】

庭田重保

權中納言重親の子。累遷して正二位權大納言に至る。文祿四年八月六日薨す。年七十一。【六】本願寺側の講和理由。】

又

溫井景隆

中篇掲出【五六】信長と北國。】

野中重政

前篇掲出【三四】信康の最後。】

野々村三十郎

中篇掲出【八〇】信忠の死。】

野々村又右衛門

織田信長の臣。【七六】火事場泥坊乎。】

乃美元信

備中宮路山の城主。毛利氏に屬し、後ち羽柴秀吉の攻むる所と爲り、之に降る。【六五】秀吉と中國陣。】

【八行】

羽柴秀勝

小字は菟丸、又は御次丸。織田信長の第四子。豊臣秀吉の猶子と爲る。文祿元年六月師を率ゐて征韓の役に從ひ、九月九日、軍に卒す。年二十七。或は云ふ、慶長元年正月七日卒

羽柴秀長

すと。【五四】秀吉と信長。【六六】高松の水攻。】
中篇掲出【一】三木城の窮迫。【三】三木城の陥落。【四】山陰方面。【五一】秀吉鳥取城に薄る。【五三】馬山の對陣。】

長谷川竹

名は秀一、本名は貞長。竹は小字、後ち改めて藤五郎と稱す。尾張の人。織、豊兩氏に仕へて戦功あり。文祿の役、朝鮮に航し、三年二月、陣中に卒す。【一六】信長の馬揃。【二一、二二】安土宗論。【七〇】家康の安土參向。【八九】平民主義の實行者。】

長谷川丹波守

織田信長の臣。【五五】秀吉と信長。】

長谷川宗仁

通稱は源三郎、剃髮して宗仁と號し、織田信長の近侍と爲る。後ち豊臣秀吉に仕へ、食邑一萬石を賜ひ、法印

長谷川與次

に叙し、式部少輔と稱す。【一五】信長の道樂。【四六】勝頼の最後。】
織田信長の臣。天正六年、信長功臣十人を茶室に享す。與次亦之に與る。【一五】信長の道樂。【四八】惠林寺炎上。】

畠山昭高

前篇掲出【六〇】信長と高野山。】

畑野源左衛門

仁科信盛の臣。天正十年三月、高遠城に戦死す。【四三】高遠城の劇戦。】

蜂須賀家政

小字は小六。尾張の人。正勝の子。織、豊兩氏に仕へて戦功あり。阿波に封ぜらる。後ち髮を削りて蓬庵と號す。寛永十五年十二月卒す。年八十。【五三】馬山の對陣。】

蜂須賀正勝

中篇掲出【五一】秀吉鳥取城に薄る。【六六】高松の水攻。】

蜂屋兵庫

中篇掲出【二〇】信長の檢地。】

服部小藤太

織田信忠の臣。天正十年二條城に戦死す。【(八〇)信忠の死。】

服部正成

半藏と稱す。參河の人。徳川家康に仕ふ。【(三四)信康の最後。】

服部六兵衛

織田信忠の臣。天正十年二條城に戦死す。【(八〇)信忠の死。】

塙喜三郎

中篇揚出。【(八)石山の最後。】

塙小七郎

中篇揚出。【(八)石山の最後。】

塙傳三郎

織田信忠の臣。天正十年、二條城に戦死す。【(八〇)信忠の死。】

馬場昌房

武田勝頼の將。信濃深志城主。【(四二)信忠信州に入る。】

馬場美濃守

前中篇揚出。【(四四)漸く最後に追る。】

林高兵衛

織田信長に仕へ、八幡宮造營の奉行と爲る。【(一九)經濟家としての信長。】

林龜之助

明智光秀の臣。【(七七)本能寺打入。】

林佐渡守

前篇揚出。【(一一)信長の殘忍性。】

林重眞

【(五)信長の道樂。】(七二)何故に謀反したる乎。】

林美作

備中冠山の城主。天正十年四月、羽柴秀吉の攻むる所と爲り、城陥りて之に死す。【(六五)秀吉と中國陣。】

林與次左衛門

美濃の人。通勝の子。織田信長の臣。【(一一)信長の殘忍性。】

林羅山

織田信長の臣。事に座して誅せらる。【(一一)信長の殘忍性。】

林

幼名は菊麿、名は忠、一名は信勝、字は子信、羅山は其號。其の先は加賀の人。後ち紀州に徙る。信時の子。藤原惺窩に就て程朱の學を講ず。慶長十一年、徳川家康召して博士と爲し、顧問に備ふ。後ち薙髮して道春と號し、民部卿法印に叙せらる。明曆三年正月廿三日逝く。年七十五。【(九六)信長と儒道。】

原隼人

武田勝頼の臣。天正十年三月二日、高遠城を守り、織田信忠と戦て之に死す。【(四三)高遠城の劇戦。】

原彦次郎

中篇揚出。【(五六)信長と北國。】

原美濃

名は虎胤。美濃守と稱す。武田信長に仕へ、晴信に及び、屢々軍功あり。故ありて北條氏康に歸し、後ち歸仕し、永祿七年卒す。年六十八。【(三七)高天神城の陥落。】

原

前篇揚出。【(三八)高天神城の陥落。】

孕石主水

塙九郎左衛門也。中篇揚出。【(八)石山の最後。】

原田備中

織田信長に仕へて小姓と爲る。天正十年本能寺の變に死す。【(七九)本能寺打入。】

針阿彌

浦の人。屠狗を以て事とす。漢高祖に從て大功を建て、舞陽侯に封ぜらる。【(八〇)信忠の死。】

樊噲

織田信長に仕へて仲間と爲る。天正十年、本能寺に戦死す。【(七九)本能寺打入。】

伴正林

江州甲賀の人。織田信長に仕ふ。【(一五)信長の道樂。】(七九)本能寺打入。】

伴太郎左衛門

織田信長の臣。天正十年本能寺の變に死す。【(七九)本能寺打入。】

彦

織田信長に仕へて仲間と爲る。天正十年、本能寺に戦死す。【(七九)本能寺打入。】

飛志越後守

仁科信盛の臣。【(四三)高遠城の劇戦。】

土方次郎兵衛

織田信長の家臣。天正十年、本能寺の變、割腹して死す。【(八〇)信忠の死。】

日向玄徳齋

武田勝頼の臣。【(四二)信忠信州に入る。】

日向昌時

武田勝頼の臣。【(三二)築山殿の陰謀。】

平井越後

大阪本願寺派の謀臣。【(七)退去と否退去。】

平井久右衛門

織田信長の臣。【(一九)經濟家としての信長。】

平岩親吉

前中篇掲出。【(三二)家康と築山殿。(三四)信康の最後。】

平尾久助

織田信長に仕へて小姓と爲る。天正十年本能寺に戦死す。【(七九)本能寺打入。】

平野勘右衛門

織田信忠の臣。【(四一)信長の軍配。】

フ

福田三河守

織田信長の臣。【(七六)火事場泥坊乎。】

福田與一

織田信長の臣。【(一九)經濟家としての信長。】

福富平左衛門

中篇掲出。【(八〇)信忠の死。】

福富行清

織田信長の臣。【(五六)信長と北國。】

福山光定

尼子氏の臣。後ち豊臣秀吉に仕ふ。【(四)山陰方面。】

藤井藤左衛門

大阪本願寺派の謀臣。【(七)退去と否退去。】

藤田傳五

明智光秀の臣。【(七六)火事場泥坊乎。(七七)本能寺打入。】

布施五介

織田信長の臣。【(一五)信長の道楽。】

布施藤九郎

織田信長の臣。【(一五)信長の道楽。】

佛光國師

鎌倉圓覺寺の開山。祖元字は子元、無學と號す。宋の明州廣元府の人。弘安二年、北條時宗、之を聘し、圓覺寺を建て、開山第一祖と爲す。九年九月三日寂す。歳六十一。勅して佛光禪師と諡す。【(四八)惠林寺炎上。】

不傳

一に普傳に作る。京都妙國寺の學僧。天正七年五月廿七日、安土宗論に列し、織田信長の爲に殺さる。【(一一)】

不破河内守

前中篇掲出。【(六〇)信長と高野山。(八六)人材競進時代の成功者。】

不破彦三

中篇掲出。【(五七)信長と上杉景勝。(六四)信長の凱旋。】

不二道人

京都南禪寺の禪僧。方秀字は岐陽。不二道人と號す。讃岐の人。姓は佐伯氏。母は源氏。康安元年十二月廿五日生れ、應永卅一年二月三日寂す。年六十二。著はす所、琴川録、不二遺稿あり。【(九四)宋學興隆の來歴。】中篇掲出。【(八一)フロエーの報告。(九一)無意識の帝國主義實行者。(九)信長に對する宣教師の評。】

フロエー

戸次團右衛門

上杉輝虎の臣。【(二九)謙信死後の御家騒動。】

別所重棟

中篇掲出。【(三)三木城の陥落。】

別所長治

中篇掲出。【(一)三木城の窮迫。(三)三木城の陥落。(五)本願寺窮境に落つ。(五〇)鳥取城の籠城。】

別所彦進

名は友之。安治の子。長治の弟。天正八年三木城に據りて羽柴秀吉に抗し、正月十七日城陥りて自殺す。年二十一。【(三)三木城の陥落。】

別所安之

播磨の人。別所長治の臣。天正七年六月、羽柴秀吉の攻むる所と爲りて戦死す。【(一)三木城の窮迫。】

別所賀相

中篇掲出。【(一)三木城の窮迫。(三)三木城の陥落。】

ホ

北條氏直

前篇掲出。【(二八)外交上に於ける勝頼の位置。(八一)信長の事業。】

北條氏秀

前篇掲出。【(二九)謙信死後の御家騒動。】

北條氏政

【動】
 前中篇掲出【(一六)信長の馬揃。(二七)家康と勝頼の對抗(二八)外交上に於ける勝頼の位置。(三〇)有無交換。(三七)高天神城の陥落。(三九)武田氏の亡微。(四一)信長の軍配。(四六)勝頼の最後。(四九)武田氏舊領土の處分。(六一、六三)信長の凱旋。(六九)織徳同盟二十餘年。(八二)信長の事業。(八三)統一の志望者は誰ぞ。】
 前中篇掲出【(二八)外交上に於ける勝頼の位置。(二九)謙信歿後の御家騒動。(八三)統一の志望者は誰ぞ。(八四)統一の氣運に乗ず。】
 伊勢新九郎也。前中篇掲出【(八五)實力の世の中。】
 小字は正壽、相模太郎と稱す。時頼

北條氏康

北條早雲

北條時宗

北條泰時

細川忠興

細川晴元

細川藤孝

の子。父に繼て執權と爲る。弘安七年卒す。年三十。【(四八)惠林寺炎上。】
 前篇掲出【(四八)惠林寺炎上。】
 中篇掲出【(四)山陰方面。(一七)信長の馬揃。(四二)信忠信州に入る。】
 前篇掲出【(九)教權と大阪。】
 前中篇掲出【(四)山陰方面。(一三)信長の殘忍性。(一五)信長の道樂。(四二)信忠信州に入る。(五一)秀吉鳥取城に薄る。(九六)信長と儒道。】
 中篇掲出【(一五)信長の道樂。(一六)信長の馬揃。(一九)經濟家としての信長。(二〇)信長の檢地。(二二、二二、二五)安土宗論。(五五)秀吉と信長。(六〇)信長と高野山。(六一)伊賀の平定。(六八)講和は何れより發議したる。(七〇)家康の安土參向。(七一)不可解手可解乎。(八五)實力の

堀久太郎

堀尾吉晴

世の中。(八九)平民主義の實行者。】
 姓は高階氏。小字は仁玉丸、後ち小太郎と改め、結髪して茂助と稱す。尾張の人。中務少輔吉久の子。豊臣秀吉に仕へて戦功あり。秀吉薨後、徳川家康に屬し、越前府中に封ぜらる。慶長十七年卒す。年六十九。【(五二)鳥取城の陥落。】
 前篇掲出【(三四)信長の最後。(三六)徳川信康。】
 前中篇掲出【(九二)當時の高嶽。】
 大久保忠教の家臣【(三八)高天神城の陥落。】
 シロザル、瓦連的公。千四百七十六年九月十八日生れ、千五百七年三月三日、維納に於て殺さる。【(一〇二)自恃の英雄。】

本多重次

本多忠勝

本多主水

前田利家

前中篇掲出【(一一)信長の殘忍性。(一七)信長の馬揃。(三一)家康と築山殿。(五六)信長と北國。(五七)信長と上杉景勝。(六〇)信長と高野山。(七四)何故に謀反したる乎。(八五)實力の世の中。(八八)直備徑行。(九二)當時の高嶽。(九六)信長と儒道。(一〇二)自恃の英雄。】
 織田信長の臣【(七六)火事場泥坊手。】
 前波彌五郎
 中篇掲出【(二八)外交上に於ける勝頼の位置。】
 眞木島玄蕃頭
 一に正光に作る。備前の刀匠【(六四)信長の凱旋。】
 細川藤孝の臣【(五一)秀吉鳥取城に薄る。】

眞光

松井康之

【マ行】

松井友閑

前中篇揭出。【(七)退去と否退去。】一
一)信長自筆の折檻書。【(一五)信長
の道樂。】(二〇)信長の檢地。【(六〇)
信長と高野山。】(七〇)家康の安土參
向。】

松尾掃部大輔

織田信忠の臣。【(四三)高遠城の劇
戦。】

松下嘉兵衛尉

前篇揭出。【(八四)統一の氣運に乗
ず。】

松田新六郎範秀

一に政變に作る。靈秀の子。
笠原氏の嗣と爲り、北條氏に仕へ、
戸倉城を守る。功なきを以て比丘尼
殿と稱す。其後武田勝頼に通じ、勝
頼亡びて復歸す。北條氏政之を誅せ
んとす。靈秀爲に哀を乞ひ、死一等
を減せられ僧と爲る。【(三七)高天神
城の陥落。】

松田憲秀

尾張守と稱す。世、北條氏の臣。國

松平忠輝

事に參與す。豊臣秀吉、小田原を伐
つや、靈秀歿を通じ、内應を約す。
事覺はれて、誅せらる。【(三七)高天
神城の陥落。】

松平忠直

小字は辰千代。徳川家康の第六子。
初め川中島十八萬石を賜はり、慶長
十五年封を越後に轉じ、福島城に治
し、六十二萬石を領す。後ち狂暴罪を
獲て封を奪はる。天和三年七月三日
卒す。年九十二。【(三五)徳川信康。】
小字は長吉。徳川秀康の長子。父歿
じて封を襲き、越前に治す。狂暴度
なく、後ち豊後萩原に配せらる。慶
安三年九月卒す。年五十六。【(三五)
徳川信康。】

松永久秀

前中篇揭出。【(五)本願寺窮境に落
つ。】(九六)信長と儒道。】

松野平介

織田信長の臣。天正十年、本能寺に

松本爲足

戦死す。【(八〇)信忠の死。】
織田信長の臣。【(七六)火事場泥坊
乎。】

馬淵某

堀秀政の臣。【(二五)安土宗論。】

萬見仙千代

中篇揭出。【(一五)信長の道樂。】

丸毛兵庫頭

中篇揭出。【(七六)火事場泥坊乎。】(八
六)人材競進時代の成功者。】

三宅長盛

中篇揭出。【(五六)信長と北國。】
別所長治の臣。天正八年正月十七日、
三木城の陥るや、長治と共に自殺す。

三宅治定

【(三)三木城の陥落。】

三倉忠右衛門

大久保忠世の家人。【(三八)高天神
城の陥落。】

水野監物

前篇揭出。【(四二)信忠信州に入る。】

水野九藏

織田信忠の臣。天正十年、二條城に
戦死す。【(八〇)信忠の死。】

水野宗兵衛

織田信長の臣。【(四二)信忠信州に入
る。】

水野信元

前篇揭出。【(一)信長自筆の折檻
書。】(三一)家康と築山殿。】

溝尾勝兵衛尉

明智光秀の臣。【(七七)本能寺打
入。】

滿仲

鎮守府將軍經基の子。村上、冷泉、
圓融、華山の四朝に仕へ、累遷して
鎮守府將軍に拜せらる。後ち髮を剃
りて滿慶と更め、多田新發意と號す。
長徳三年卒す。年八十六。【(三六)徳
川信康。】

南村梅軒

未だ其の名字を詳にせず。或は云ふ、
周防の人、大内氏の遺臣なりと。出
で、土佐に至り、吉良宣義の館に客
と爲り、孝經、四書を讀み、傍ら孫
吳を講じ、南學の開祖と爲る。【(九
四)宋學興隆の來歴。】

源 頼 朝

前篇掲出【五七】信長と上杉景勝。
【六三】信長の凱旋。【八三】統一の志
望者は誰ぞ。】

箕浦次郎右衛門 織田信長の臣。【七六】火事場
泥坊乎。】

箕浦無右衛門 中篇掲出。【八】石山の最後。】

宮部 繼 潤

初め中務卿と稱す。近江坂田郡離井
の人。刑部少輔眞舜の子。初め淺井長
政に仕ふ。後ち羽柴秀吉に屬し、軍
功を以て鳥取城に封ぜらる。慶長四
年三月卒す。年七十二。【五一】秀吉
鳥取城に游る。】

明 慧 上人

中篇掲出。【四八】惠林寺炎上。】

三好 笑 岩

中篇掲出。【四二】信忠信州に入る。
【五九】信長と四國。】

三好 神 五 郎

名は政長、越前守と稱し。剃髮して
宗之と稱す。長輝の弟、持勝入道宗

三好 伊 賀 守

安の子。世々四國の細川氏に仕ふ。
天文十八年三好長慶と戦て克たず。
追兵の爲に殺さる。【九】教權と大
阪。】
細川晴元の臣。【九】教權と大阪。】

夢 窓 國 師

山城嵯峨天龍寺の開山。疎石字は夢
窓、姓は伊勢源氏。宇多天皇九世の
孫。母は平氏。建治元年生れ、觀應
二年九月卅一日寂す。年七十七。【四
八】惠林寺炎上。】

武藤 彌 平 兵 衛 尉

美濃の人。織田信長の臣。【八
六】人材競進時代の成功者。】

村 井 春 長 軒

村井民部也。前中篇掲出。【八〇】
信忠の死。【八六】人材競進時代の
成功者。【九五】信長と儒道。】

村 井 長 頼

前田利家の臣。【九二】當時の高徳。】
織田信長の臣。天正十年本能寺に戦
死す。【七九】本能寺打入。】

村 田 吉 五

前篇掲出。【三四】信康の最後。】

村 正

前篇掲出。【三四】信康の最後。】

孟 子

孟軻字は子車。或は子輿に作る。世に
孟子と云ふ。鄒の人。魯の公侯孟孫
の後。業を子思の門人に受く。孟子
七篇を作る。生歿年未だ詳ならず。或
は云ふ、周の烈王四年に生れ、赧王廿
六年に卒すと。年八十四。【九四】宋
學興隆の來歴。【九六】信長と儒道。】
備前長船の刀匠。【二】竹中重治。】
吉良宣義の臣。【九四】宋學興隆の來
歴。】

元 重

備前長船の刀匠。【二】竹中重治。】

求 馬

吉良宣義の臣。【九四】宋學興隆の來
歴。】

本 山 梅 慶

土佐朝倉城主。初め四國の細川氏に

毛 利 新 介

仕ふ。細川氏衰へ三好氏興るに及び
其の國柄を執り、長曾我部氏と戦て
克たず。永祿七年卒す。【九四】宋學
興隆の來歴。】

毛 利 輝 元

前篇掲出。【八〇】信忠の死。】

毛 利 秀 頼

前中篇掲出。【二八】外交上に於ける
勝頼の位置。【五三】馬山の對陣。【六
七】高松の水攻。【六八】講和は何れに
り發議したる。【七一】不可解乎可解
乎。】

毛 利 元 就

尾張の人。初め織田信長に仕へて戦
功あり。後ち豊臣秀吉に仕へ、豊臣
氏を賜ひ河内守に任じ、侍從に任ず。
文祿二年病て卒す。【四二】信忠信州
に入る。【四三】高遠城の劇戰。【四九】
武田氏舊領士の處分。【八五】實力の
世の中。】
前中篇掲出。【四】山陰方面。【四三】

森 可成

高遠城の劇戰。(五〇)鳥取城の籠城。(五三)馬山の對陣。(六七)高松の水攻。(七二)何故に謀反したる乎。(八三)統一の志望者は誰ぞ。(八五)實力の世の中。(一〇一)實力の英雄。【前篇掲出。】(七三)何故に謀反したる乎。】

森 勝藏

名は長一、一に忠政、長可に作る。美濃の人。可成の第二子。父に繼て金山城に居る。織田信長に仕へ、後ち豊臣秀吉に屬し、天正十二年長湫の役に戰死す。年二十七。【(四二)信忠信州に入る。(四三)高遠城の劇戰。(四九)武田氏舊領士の處分。(五七)信長と上杉景勝。】

森 坊

名は長氏、可成の第五子。織田信長に仕へ、本能寺の變に戰死す。年十六。【(七九)本能寺打入。】

森 亂

名は長定、一に長康に作る。字は亂丸、美濃の人。可成の第三子。織田信長に仕へ、左右に近侍し、寵遇甚だ渥し。天正十年、本能寺の變、信長に從て戰死す。時に年十八。【(一九)經濟家としての信長。(四九)武田氏領士の處分。(七〇)家康の安土參向。(七三)何故に謀反したる乎。(七九)本能寺打入。】

森 力

名は長隆、可成の第四子。織田信長に仕へ、本能寺の變に戰死す。年十七。【(七九)本能寺打入。】

森 下道祐

吉川經家の臣。【(五二)鳥取城の陥落。】

森 下道與

山名豐國の臣。【(四)山陰方面。(五〇)鳥取城の籠城。】

森 脇次郎兵衛

吉川元春の臣。【(五一)秀吉鳥取城に薄る。】

【ヤ行】

ヤ

矢木 駿河

本願寺派の將。【(七)退去と否退去。】

矢代 勝介

織田信長の臣。乘馬の術に長ず。天正十年本能寺の變、信長に從て戰死す。【(一六)信長の馬揃。(七九)本能寺打入。】

梁田 出羽守

前篇掲出。【(八五)實力の世の中。】

矢部 善七郎

中篇掲出。【(八)右山の最後。(二一、二二)安土宗論。】

山岡 對馬守

織田信長の臣。【(七六)火事場泥坊乎。】

山縣 九左衛門

因幡丸山城主。毛利氏に屬す。【(五一)秀吉鳥取城に薄る。】

山縣 三郎兵衛

昌景の通稱。前中篇掲出。【(四六)勝頼の最後。】

山縣 總右衛門

吉川元春の臣。【(五三)馬山の對

山縣 春往

吉川元春の臣。【(五〇)鳥取城の籠城。】

山口 半四郎

織田信長の臣。天正十年、信忠に從て、二條城に戰死す。【(八〇)信忠の死。】

山崎 闇齋

名は嘉、字は敬義、小字は長吉、後ち清兵衛、嘉右衛門と改む。闇齋、垂加、梅菴皆其の號。京師の人。其の先は播磨山崎の人。清兵衛の子。幼時妙心寺に入り、僧と爲る。後ち還俗して儒となり、程朱の學を講じ、一家を成す。天和二年九月十六日逝く。年六十五。【(九四)宋學興隆の來歴。】

山崎 源太左衛門

織田信長の臣。【(六四)信長の凱旋。】

山崎 長門守

明智光秀の臣。【(七七)本能寺打入。】

山路 愛山

前中篇掲出。【(七二)何故に謀反した

山田彌太郎

織田信長に仕へて小姓と爲り、天正十年本能寺の變に戦死す。【(七九)本能寺打入。】

大和淡路守

足利義昭の臣。【(四八)惠林寺炎上。】

山名祐豐

前篇掲出。【(四)山陰方面。】

山名豊國

中篇掲出。【(四)山陰方面。(五〇)鳥取城の籠城。】

山名豊弘

祐豐の姪。【(四)山陰方面。(五〇)鳥取城の籠城。】

山中幸盛

中篇掲出。【(四)山陰方面。】

湯淺甚介

織田信長に仕へて小姓と爲り、本能寺の變に戦死す。【(七九)本能寺打入。】

由井正雪

一に油比氏、松雪に作る。小字は久米。駿河の人。傳三郎(一に彌左衛門)の子。石川主税に就て兵學を修む。遂に桶氏を冒し興四郎と稱し、兵法を教授し、子弟を糾合し、異圖を懷き、將に爲す所あらんとし、事覺はれ、慶安四年七月廿六日、駿河に於て自殺す。【(九)教權と大阪。】

遊佐河内守

名は國助、一に助國に作る。姓は藤原氏。小山氏の庶族。畠山氏に屬し、其の祖、世、河内に居る。國助河内守と稱し、若江城に居る。寛正元年閏九月、畠山政長と戦て之に死す。【(六〇)信長と高野山。】

葉明

明末の海賊。【(九〇)無意識の帝國主義實行者。】

世木彌左衛門

織田信長の臣。【(七六)火事場泥坊乎。】

横田甚五郎

名は盛胤、原美濃の子。武田勝頼に仕へ、高天神城を守る。天正三年五月、長篠の役に戦死す。【(三七、三八)高天神城の陥落。】

横田備中守

名は胤繼、下總小弓城に居る。【(三七)高天神城の陥落。】

依田信蕃

一に幸致、又は幸政に作る。初め新六郎、右衛門佐、又常陸介と稱す。信濃の人。武田氏に仕へて軍功あり。田中城を守る。武田氏亡びて後、徳川家康に仕ふ。天正十一年二月卒す。二弟曰く善九郎、曰く源八郎。【(二七)家康と勝頼の對抗。(四四)漸く最後に迫る。】

吉岡質休

因幡吉岡城主。毛利氏に屬し、後ち羽柴秀吉に降る。【(五二)鳥取城の陥

吉田東伍

新潟の人。旗野木七の第三子。吉田氏の養ふ所と爲り、其の姓を冒す。天正七年一月廿二日逝く。年五十三。日韓古史斷、徳川政教考、倒叙日本史、及び大日本地名辭書等の著あり。【(九五、九六)信長と儒道。】

吉光

【(ラ行)】

賴山陽

前中篇掲出。【(七四)何故に謀反したる乎。(一〇二)自恃の英雄。】

藍田長老

京都南禪寺の禪僧。素瑛字は藍田、大業基禪師の法を承けて兩禪寺に出世し、晚年金地院に退隱す。【(四八)惠林寺炎上。】

劉

禪

蜀主後皇帝。姓は劉、名は禪、字は公嗣、昭烈帝の子。年十七位に即く。炎興六年、魏の攻むる所と爲り、之に降る、安樂縣公に封ぜらる。在位四十年。【(一)竹中重治。】

龍

寶

武田晴信の子。母は三條氏。生れて盲。天正十年三月、織田信忠の殺す所と爲る。【(四六)勝頼の最後。】甲州大龍寺の禪僧。天正十年、武田勝頼に從て田野に戦死す。【(四六)勝頼の最後。】

麟岳長老

蓮

如

前篇掲出。【(六)本願寺側の講和理由。】(九)教權と大阪。】

六角定頼

小字は四郎、近江の人。高頼の第二子。初め相國寺に入りて僧と爲り、

六角勝仙院

吉侍者と稱す。後ち還俗して足利幕府に近侍し管領に補せられ、天文廿一年正月卒す。【(九)教權と大阪。】京都の山伏。【(二八)外交上に於ける勝頼の位置。】

六角承禎

義賢の號。前篇掲出。【(四八)惠林寺炎上。】

【(ワ行)】

渡邊久左衛門茂

徳川家康の臣。【(三六)徳川信康。】

渡邊金太夫

仁科信盛の臣。【(四三)高遠城の劇戰。】

渡邊彌一郎

徳川家康の臣。【(六四)信長の凱旋。】

索引

【ア行】

ア

- 安藝.....二七三
- 安土.....三三、四四、四五、九三、九六、一〇一、二〇六、二二六、二五〇、二五五、三〇三、三〇六、三〇九、三七七、三五三、三五七、三六〇、三六三、三六八、三六九、三七八、三九〇、四〇一、四〇三、四〇七、四一一、四二二、四三〇、四三三、四三六、四三九、四四〇、四四七、四四八、四六八、四七〇、四七四
- 安土宗論.....一九、二二、三六、四一
- 安土町.....一九、三九
- 安土山.....二九、三三、三九、四二、四七、五二
- 吾妻.....三三
- 安曇郡.....三三
- 秋里.....三三
- 芦川城.....三三
- 阿波.....三三、三九、三四、三六

近世日本國民史 索引

安房

- あべ川.....四四八
- 奥羽.....三四六
- 奥州.....三九
- 近江.....六八、三九一
- 星守川.....三六、三五七
- 足利時代.....四〇八、四一九、四九八
- 足利末期.....六八、三三、四四六、四五〇
- 愛宕山.....三八九、四〇四、四〇五
- 愛宕山西坊.....四〇五
- 愛鷹山.....三三五
- 淡河城.....二
- 淡路.....二〇〇、二九二
- 尼崎.....三六
- 有岡城.....二六九
- 安中.....三三五

安南……………四七三

イ 伊

伊賀……………三四、三五、三六、三七、四七
 伊賀征服……………三〇五
 伊勢……………七六、七九、三四、四八
 伊勢雲出川……………三九
 伊勢神廟……………一三三
 伊勢北國門徒……………一四〇
 伊丹城(又は伊丹)……………三三、三六、三八、三九
 井ノ口……………三三
 井手野……………三三
 伊那郡……………三六
 伊那口……………三三、三六
 伊豫……………三六、三七、三八、三九
 伊豫川……………三四
 伊呂瀨……………三九
 飯嶋……………三九
 飯田城……………三三、三四、四五、四六

飯盛山……………四九
 飯山……………一五七
 池田……………二、三四、八
 石山城……………三三
 石山御堂……………四五、六一
 一向宗……………一三九
 一ノ關……………四七
 一宮(阿波)……………三六
 一宮城(伊賀)……………三六、三七
 市川口……………三六
 和泉……………六八、二五、四七
 出雲……………二六、三九
 稻葉山……………三
 大山……………二五、二六
 乾城……………一四六、一四七
 岩倉城……………二六、二七、二九
 岩倉表……………三六
 岩崎山……………三六

岩原地藏堂……………三五

岩淵橋……………四七

岩淵城……………二六

岩淵關……………四七

岩村城(又は岩村)……………二〇八、二三、三四、三六、三四

石見……………三九

今切……………一四七、三九、五〇

今洲……………三五

因幡……………二六、二七、三〇、三二、三九、三六、三八

因州……………二七

ウ

羽衣石城……………二六、二七、二九

鳥江……………二四〇

宇治川……………四八

宇治橋……………六五

宇津ノ屋ノ坂……………三六

宇津茸……………三六

上田原……………一七

浮嶋ヶ原……………三四、三五

碓氷嶺……………六一

打越……………三八

内番場……………三九

馬伏塚……………四七、四八

馬山……………二七、二九、二九〇

厩橋……………三九

魚住……………二、三

魚津城……………三三

雲州……………三八

エ 江

江口川……………四八

江尻城(又は江尻)……………三六、三三、四六

惠林寺……………五七、五九、四八、四八

徽山……………六八、二七、四〇、三七、三八、四七

越後……………二六、三〇、三三、四四

越前……………九四、三〇

越中……………一五、一六、三〇、三〇、三〇、三〇、三〇、三〇、三〇、三〇

圓覺寺 四七
遠州 一四七、一四八、一五〇、一五五、二一三、二六六、四八

オ

織田時代 六八、四九
小谷 二五三
小田原 一四九、一五〇、四八
小田原陣中 一六六、四七
尾上城 三〇八
尾張 六八、二五
岡崎城(又は岡崎) 一七七、一六六、一七九、一八〇、一八一、一八五、一九一
岡部 一四六、一八六
岡山 三五七、三六〇
興津 三三六、三三五
大井川 一四七、一四八、一六六、一七六、一七七、一八六
老坂 四四、四一七
大久保 一九九
大塚 三〇、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五五、五七、五八、五九

大塚城 五三、六二、六五、六九、一五〇、二六九
大阪合戦 五〇
大堺 四四七
大崎城(又は大崎) 二八、六三、二六七
大嶋城(又は大島) 三四、三七
大須賀砦 一九九
太田切口 三二、三三
大津 一九、四七
大西 三四
大濱 一八〇、二〇一
大比良川 三五二
大村 三四
大村合戦 四、三六
大宮 三四、三四五
男山八幡宮 一一一

【力行】

カ

加越 三三
加賀 六七、九四、一五三、一五五、三〇六、三三三
加賀越前門徒 三三
加賀能登門徒 三三
加古川 三三
加佐村 四
加太口 三三
加茂川 四
加茂城東の丸 三六〇
香取神社 四四七
神奈川 四七
甲斐 四七
甲斐四郡 二二
賀露川 二七、二七、二七、二七
江州 三、三、二六
甲賀口 三三
甲相同盟 三〇
甲州 一四六、一四七、一四八、一六六、一九九、三三七、三三三、四四四、四四四

甲州打入 一四五
甲信 二〇八
甲府 一四、二六、三三、四一、四二、四三、四四、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五五、五七、五八、五九
甲府討入 三九〇
高國寺 三四、三四五
高野山 四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五五、五七、五八、五九
上野 一七、一八、三二
カサ 四八
掛川(又は懸川) 一四六、三五、四七、四八
春日社 四七
春日山城(又は春日山) 一五、一五四、一五五、一五六、一五七、一五八、一五九、一六〇、一六一、一六二、一六三、一六四、一六五、一六六、一六七、一六八、一六九、一七〇、一七一、一七二、一七三、一七四、一七五、一七六、一七七、一七八、一七九、一八〇、一八一、一八二、一八三、一八四、一八五、一八六、一八七、一八八、一八九、一九〇、一九一、一九二、一九三、一九四、一九五、一九六、一九七、一九八、一九九、二〇〇
勝沼 三三
勝山 一九〇
金ヶ崎對陣 四七
金谷 一七
兼山城 二六
川口砦 一一

河内	六二三、四八
河ノ江	三四
河鳴	一九五
鎌倉時代	二六〇
鎌倉の中期末期	四八七
鎌田原	三四八
上ヶ嵩	四九
上諏訪	三四二、三四三、四三二
上諏訪社	二三五
上野ヶ原	三四三
龜山城(又は龜山)	三八八、三九九、四〇三、四〇四、四〇五、四〇六、四〇九、四一〇、四二四、四二六
雁尾城	二七二、二七五
神崎川	四八
柏尾	二四〇
柏原	三五一
桂川	四八、四二五、四二七
冠山城	三六〇、三七〇

蛙ヶ鼻	三六二、三六三
蒲原	三四五、三五一
紀州	六六、三二、四八、四七三
黄瀬川	一四七、一九五
木曾口	二二三、二三五、二六四
木曾路	四六三
喜多川	一五六
喜多川館	一六一
織内	四〇八
吉良	三三九
岐阜城(又は岐阜)	七六、四三、三三、三六、三五一、三七七
九州	八五、三九、三五、三七〇、三七七、四〇九、四八、四七五
川	三四七
岸和田	三三六
北莊	七六、二九一
清洲	三五、四八
清見ヶ關	三四五

キ

行徳	四七七
勤王	五一四

ク

久野	二三五
草津	一〇九
國見山	二二六
黒駒	四七
黒部川	三三二
郡内	一九七、三九
郡内岩殿	二二九
皇室	八六、八八、八九七、九八、四三二
關東	三四一、四三九、四四〇、四四八

ケ

藝州	二八、一五〇、二七五
京都	二二八、六五、七五、九七、一〇三、一〇九、一一〇、一一三、一二五、一三六、一三七、一三八、三九、四〇五、四一六、四二九、四三〇、四三二、四三六、四三九、四四一、四四二、四四三、四四五
京都七條磧	三二九
京都西陣	四七九

元龜天正時代	四七三、四七五、四七六、四八〇、四九七、五〇〇、五〇一、五〇三、五〇七、五一一、五二七、五二八
元龜天正の社會	四八二
元祿時代	五一
檢地	一一四

コ

小出城	三〇七、三〇八
古府	二二八、二三九
小牧合戦	四七
小諸	二二七、二三八
御油	三五〇
小山(備中)	三六三
小山城(遠江)	一四六、一四七、一四八
五畿	四九、三三、三三二
五山文學	四八三、四八七
五嶋	四八五
御著城	二
高麗	四九

興福寺	一五、四〇、四七
國府津關	四七
此隅山城	六
駒飼	二四〇
駒口	四七
郡山	三

【廿行】

サ

相良	一四六、一四七
佐座喜	一〇一
佐渡	一五
佐野川	四
佐和山	三五一
小夜ノ中山	三四七
雜賀	四六、二二
雜賀門徒	三二
西國	四〇

西國陣	四二
西光寺	二六
西來寺	一八一
西院谷池ノ坊	三八
道祖神谷	二七五
桑實寺	八、三七
崇福寺	三五七
坂本城(又は坂本)	三六、三九、四三、四四、四七、四三
坂部	三八
鶯森	三六九
篠子嶺	二四〇
幸山城	三六、三六
薩摩	四七、四八、四八九
讚岐	三四、三六
堺	四八、八、〇九、三三、三七、三三、四九、四三〇、四七、四七、四七
櫻ノ岸岩	三
鯨ヶ尾城	一六一
猿掛山	三六

山陰	元
山陰山陽	三九、四元
山陰道	三八八
山陰方面	三
山陽道	二九、五七
三遠	一九六
三枚橋	三四九

シ

信貴城	三
信樂口	三五
四國	三三、三六、三七、三九、三三、三四
四國征伐	三三、三六、三七、三九、三三、三四
支竺	三九、三五、三六、三〇、三三、四〇
志染川	三〇〇
支那	三七、四〇、四八、四六、四七、四七、四七、四八、四八、四八、四五

支那人	四六
宗教	三三、三六、三九、三七、五〇
鹽買坂	一九七
鹽見坂	三五〇
鹿野城	二六、二六、二七〇
信濃	一七、二〇、二二、三〇、三二、三三
信濃四郡	二六四
信州	三七、三六、二六三
品川	四七
篠山	一六
嶋田町	二六、三三
下野	四四
運羅	四六、四七、四七
儒學	四七
儒教	四七、四七
儒道	四三、四四、四六、四七、四八、四九
書寫山	一四
白糸の瀧	三四三

白川……………三四八
 上州……………三四三
 常願寺川……………三四三
 成願寺川……………三四八
 淨嚴院……………三六〇、三四三、三四四、三四六
 淨土宗……………三六〇、三四三、三四四、三四六、三四八、三四九、三四三、三四五、三四六
 勝瑞……………三六六
 若州……………三七七
 信玄時代……………三七一
 新城……………三六六
 新莊……………三七七、三九〇
 新府……………三〇七、三二〇、三三〇、三三六、三三九、三四〇、三四二
 神通川……………三四八
 周防……………三四九
 洲股河畔……………三三三
 諏訪……………三二七、三三三、三三四、三四一

ヌ

諏訪郡……………三六〇
 諏訪城……………三四四
 諏訪之上原……………三七七、三四四
 諏訪原城……………一四五、一四六、三三三、三四七
 西班牙……………四七二、四七七
 西班牙人……………四四六
 瑞龍寺……………四八六
 末森城……………三〇九
 住吉……………三三六
 駿河……………三四七、三六七、三六八、三六九、三九七、四〇〇
 駿河口……………三三三
 駿毛……………三〇八
 駿府……………三三三
 瀬戸川……………三四一
 征韓役……………三〇一
 政秀寺……………四八六

セ

西洋……………三七七
 清瀧寺……………一八三
 關原役……………一九〇
 攝州……………二二五
 攝津……………三二一、三四八、三四三
 宣教師……………一〇一、一〇九、一〇七、一〇七、一〇七、一〇三、一〇三、一〇三、一〇三、一〇三、一〇三、一〇三、一〇三、一〇三、一〇三
 禪學……………四六六、四八八
 禪宗……………二六〇、三二六、四八三、四八四、四八六、四八七
 禪僧……………四六六、四八八
 泉州……………三三三
 膳ノ城……………一七七

リ

宋學……………四六六、四七七、四八八、四九一、四九七
 總見寺……………三六〇、四九九、五三三
 僧侶……………一七三、三二二

【夕行】

但馬……………二五八、二七〇、二七四、二九一、二九六、二九七
 但州……………三〇一
 田子……………二四〇、二四四
 田子ノ浦……………三四五
 田中城……………一四七、三五五、三四六、三四七
 田邊城……………二二五
 大胡……………一九七
 太閤時代……………九二
 臺灣……………四七三
 帝釋山……………三三三
 道明寺川……………四九九
 高明城……………一四五
 高鳴城……………二三五
 高天神城(又は高天神)……………一四六、一四八、一九六、一九七、一九八、一九九、二〇〇、二〇六、二〇八
 高遠城……………三七七、三四四、三七七、二六三
 高野宮……………二八
 高松城……………三三三、三六六、三六七、三六八、三六九、三七三

高松城攻……………三五七、三六八
 高松城水攻……………三六八
 鷹之尾……………一八
 瀧ヶ澤岩……………三三
 竹田城……………六六
 武田征伐……………三五
 武田氏末路……………三三、三六、三七
 武田氏滅亡……………三四、三五
 立田山……………四九、五〇
 榎木城……………三三
 種ヶ嶋……………四七
 榑井……………三五
 榑山城……………四七
 財田……………三四
 丹後……………三五、三七、四〇
 丹波……………二五、二八、三〇、四二
 丹波攻略……………一

チリフ
 池鯉鮒……………三五、三六、三七、四〇、四二、四八、四九
 中國……………二六、二九、二九、三〇
 中國征伐……………二、三、五
 中國方面……………三三、三六
 竹生嶋……………八一、八二
 筑摩郡……………三五
 長光寺山……………三七
 ツ
 對嶋……………四七
 築山……………二六
 脚躑崎城……………二七、三九
 鼓山……………三三
 鶴岡八幡宮……………四七
 テ
 朝鮮……………三七、四六、四六、四七、四八、四九
 朝廷……………二六、二八、二九、三〇、三二

寺山……………三六
 天神川……………三六
 天神山……………三二、三六
 天下統一……………一〇、三三、三三、三三、三三、三三
 天目山……………三九
 天王寺……………五〇、五〇
 天龍川……………三六、三六
 ト
 戸倉城……………一九
 土佐……………三六、三七、三九、三〇、三四、四八
 戸崎……………四七
 富田……………三六
 富山城……………二七
 鳥羽……………三〇、三〇
 鳥取城(又は鳥取)……………二六、二七、二七、二七、二七、二七
 土呂……………三三
 東海……………四一
 近世日本國民史 索引……………四八

東海道……………三九、四三
 東郷池……………二七
 東北……………三二、四〇
 唐土……………四九
 徳川時代……………四三、四七
 徳川初期……………四三
 徳川幕政時代……………四七
 徳川幕府……………四七
 遠江……………四三
 豊臣時代……………三九
 豊原……………四八
 泊城……………二八
 鳥居峠……………三三、三三、三三
 ナ
 奈良……………四八、三八
 奈良井坂……………三三
 ナ
 三三

長尾……………三四
 長篠……………一九五、一九七、二七、三九
 長篠の勝利……………一四五、四七六
 長篠の敗北……………二五四
 長嶋門徒……………三三
 長野川……………三六三
 長濱……………八一、三九一
 長良川(備中)……………二四五、三六三、三七七
 中田……………三〇八
 中津川……………四八
 中山……………二五
 ナミアヒ……………二四五
 波合……………三六三
 鳴谷……………三五二
 鳴海……………三五二
 南禪寺……………二四
 南北朝初期……………四七
 南蠻……………四九、三七、四六、四七、四九、四八一

南蠻人……………四六
 二……………
 二條御所……………四三、四四、四三三
 二條邸(又は二條新邸)……………八九、九三
 日本海……………二八七
 日本統一……………八五、八六、二四、四〇、三七、四六、四三、四五
 丹生山……………二
 西尾城……………一八〇
 西上野……………一五二、二二一
 西日本……………三七八
 日阪……………三四七
 日蓮宗……………三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三
 葦崎……………二〇七、二〇八
 又……………
 沼城……………三五七
 沼田城(又は沼田)……………一五、一五、三二
 沼津……………一四八

ネ

根來……………四六五
 根來寺……………三三
 念佛宗……………三三
 ノ……………
 野尻池……………一五四
 能登……………一五、一五、一五、三六、三六、三三
 能州……………三三
 信長時代……………一〇八、四七八
 信長末期……………九三

【八行】

ハ

馬關……………四八五
 伯耆……………二六、二九、三〇、三六、三七
 伯州……………三八八
 箱根關……………四四七
 橋津川……………二六七、二六八

若隈城

若隈城……………二、三
 花澤城……………三四六
 濱名橋……………三五〇
 濱松城(又は濱松)……………一四六、一四七、一四八、一五二、一六八、一六九、一七九、二三五、三三〇、三七九
 原古才……………三六三
 服部山……………三六七
 林谷……………一九九
 播磨……………二九一
 播州……………二六、二七、四八、九五、二九七、三〇一
 播州經略……………二六
 播州平定……………一
 飯道寺……………三六
 蟹山城……………三六
 ビ……………
 比叡山……………一五
 肥後……………四七三
 肥前……………四七三

日差山	三六六
尾州	一九六
尾濃	一五〇
備後	三七三
備中	三〇〇、三〇一、三〇二、三〇三
備前	三五八
姫路	二七三、二九〇、三〇七
平井山合戦	一
平田營	四
平田村	三
平谷	三三
平戸	四七四
平山陣	二
平山村	一五三、三三
兵庫	四七
東上野	一〇〇、一九七
東日本	三六
富士川	一九五、三四五
富士山	三九、三〇一、三四三、三四四
府峠城	三〇七
府中	二五三、三四六
笛吹川	三四一
深澤城	三四四
深志城	三四三
福岡	三五七
福岡	三五七
福岡	三五七
藤枝	二四六、二六六、三四七
藤原時代	一五、三四三
二股城	一五、三四三
二見	三二
佛徒(又は佛教徒)	三〇一、三〇二、三〇三
袋川	二七三、二七四
文祿慶長役	四七八
北京	四八五

フ

フ

平安朝	六〇
別宮	三〇七、三〇八

ホ

法華一揆	三三
法華寺	二六三
法華宗	一七五、二〇〇、二二二、二六三、二九一、三〇〇、三〇一、三〇二、三〇三、三〇四、三〇五、三〇六、三〇七、三〇八、三〇九、三一〇、三一〇
法養寺	三九四
豊筑	四七四
北國	三〇五、三〇六、三〇九
北國役	三〇五
北國陣	二五三
北陸	四三
堀江城	一〇
堀口村	一〇
葡萄牙	四七、四七
葡萄牙人	四六、四七

本願寺	二九三、三〇四、三〇五、三〇六、三〇七、三〇八、三〇九、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三二二
本能寺	三〇一、三〇二、三〇三、三〇四、三〇五、三〇六、三〇七、三〇八、三〇九、三一〇、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三二二
本能寺異變	三〇一、三〇二、三〇三、三〇四、三〇五、三〇六、三〇七、三〇八、三〇九、三一〇、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三二二
本能寺打入	三〇一、三〇二、三〇三、三〇四、三〇五、三〇六、三〇七、三〇八、三〇九、三一〇、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三二二
本能寺の變	三〇一、三〇二、三〇三、三〇四、三〇五、三〇六、三〇七、三〇八、三〇九、三一〇、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三二二

【マ行】

まむし塚	三〇六
滿刺加	四七四
横尾寺	四七四
牧野城	二五三、二六三、三四七
正田町	三三
昌塚	一〇
松尾城	三〇
松倉城	四七、四七
松崎	二六、二六

鞠子……………三四六
 丸山城……………二七三、二七五、二七六、二七九
 萬座……………二六六
 身方ヶ原……………二〇一
 身延……………三六六
 三保の松原……………三三三
 參河……………六六、五六、三九、三六、四八
 三木川……………四
 三木城……………一、二、三、四、二六、三三、三六、三九、四〇
 三草越……………四六
 三國峠……………三二、三三
 三嶋……………一四
 三原……………三五
 三好郡……………三五
 三石……………三七
 見附……………三六
 美濃……………六

美馬郡……………三五
 宮内……………三六〇
 宮之上……………一八
 宮路山城……………三〇
 箕作城……………二九一
 明……………四七三、四七四、四七五、四七八
 明末期……………四七一
 六笠川……………一九九
 武藏……………四四八
 武藏野……………三三一
 むの田川……………三五一
 室町時代……………九六、四四
 室町幕府……………四九、四三
 明治維新史……………四八七
 明治大正時代……………六三、四七
 妙覺寺……………四三、四三

妙顯寺……………四二五、四二六
 妙心寺……………二五七
 妙智院……………四八五、四八六

モ

持舟城……………一四八、三五、三四六
 本坂……………三九
 本巢……………三四三、三四四
 諸寄城……………二七
 文殊堂……………二六
 門前村……………二六三
 門徒一揆……………六〇、三三

【ヤ行】

ヤ

耶穌教……………一三、四一、八八、五〇一
 耶穌會……………一〇七、三九、四八二
 耶穌會士……………四三三
 耶穌會堂……………四八〇

八上城……………一
 八幡山城……………二
 八幡山……………三六
 やはた八幡宮……………二一
 矢矧川……………三五
 山上……………一九七
 山口……………四六、四八、四八、四九〇
 巖原……………三三
 山崎……………三〇、三五、三五、四一七
 大和……………六八、二四、三三
 大和川……………四九
 大和口……………三三

ユ

湯本關……………四四七
 由良城……………二九〇
 弓木城……………二五

ヨ

橫須賀(遠江).....一四六、一四八、一九九
 吉岡城.....一八、二八三
 吉田(藝州).....二六七、三六七
 吉田(遠州).....三五〇、三五二
 吉田川.....三五〇
 吉野川.....三四四
 吉原.....三四五
 淀川.....四八
 鐙カマド畑.....二六七

【ラ行】

龍王山.....三六〇、三六一
 臨濟寺.....四八四

ル

呂宋.....四七三、四七四、四八一

ロ

呂久川.....二四五

羅馬.....四七
 六道寺川.....三八

【ワ行】

ワ

和氣.....三四
 和冠.....四六、四七
 鷺塚.....二〇一

大正八年十月十二日印刷
 大正八年十月十五日發行

近世日本 織田氏時代後篇 上製與付
 國民史

定價金五圓

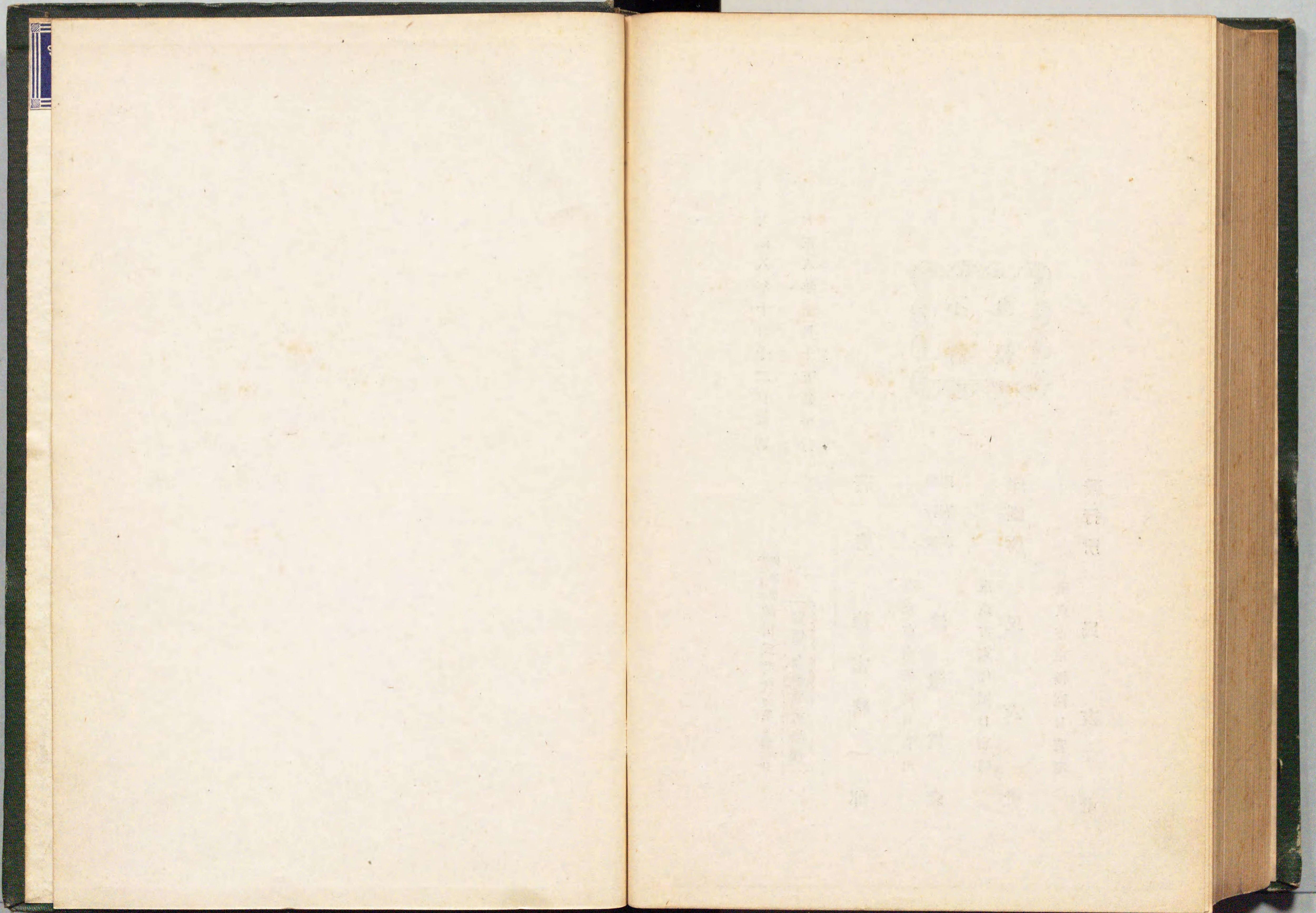
著者 德富猪一郎

印刷者兼 渡邊爲藏

印刷所 民友社

發行所 民友社





SAN-AISHA SHOTEN
電話神田二九七五番
三愛社書店

